
ネットカフェ・in・サバイバル2

刺身ハンター

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ネットカフェ・in・サバイバル2

【Nコード】

N9723W

【作者名】

刺身ハンター

【あらすじ】

好きな女の子に告白したら、返事は……。前作、ネットカフェ・in・サバイバルの続編です。

「あなたの自慢できるところを教えてください。」

「アダムを倒して、世界を救った救世主になった事です。」

「……??.?」

今は九月下旬。そう！就職試験の真っ最中なのだ♪え？進学しないのかって？しないよ。俺、勉強嫌いだもん。

……なんか、面接官が何言ってるんだコイツ？みたいな表情で俺を見ってくる。嘘はついてないんだケドな。

「じゃあ、あなたの好きな物を教えて下さい。」

好きな物？決まってるだろ！フツ……愚問だぜ。

「ジブリと天宮です！」

「あ…まみや？」

は？天宮は天宮だろ？頭悪いなコイツ。

「どんなところが好きですか？」

「じゃあ、逆に聞きますけど、貴方はジブリを見て感動しませんか？するでしょ？天宮に関しては全部！」

「わかりました、質問は以上です。」

「失礼しました！」

……完璧だぜ！100%受かったな。

ネットカフェ・in・サバイバル2
STAGE1
START!!

＼EARTH・FANTASY、地下会議室＼

「……このステータスは、異常じゃないかね？」

「本来、ニートは最弱職業のはずだろう？」

「あのアダムのステータスを、瞬間的とはいえ、遥かに超えている
…。」

「ドクター谷川、このプレイヤーは君の息子だと聞いたが…？」

「ふふふっ…、もう十年以上会ってませんが、確かに私の股から出てきた息子ですね。」

……かわいい大和ちゃんが、こんなに大きくなってるなんて。……
ふふふ、あの馬鹿男にそっくりな容姿がムカつくわね♪

「アダムを倒す程の力だぞ！？これは危険じゃないかね？」

「危険でしょうね。私の息子は、世界を牛耳る力を備えている訳ですから……。」

ウッセーな糞ジジイ共が！こんな退屈な会議に意味はない。ひひひ……、全て計画通り！さあ大和ちゃん、私のためにどんどん強くなりなさい！私のために……。

ガーッ……。とかマヌケな音を出して、自動ドアが開く。ふーっ、やっと窮屈な試験が終わったぜ。さーって、俺のマイハニーに電話しよう♪

（前作・最終話）

「好きです。付き合ってください！」

「えっ！？………うん。よろしくね谷川君。」

しゃああああああ！いやったー！ヒャッホー！
……と、いう訳で、天宮は俺の彼女になりましたー！

「もしもし？結衣？」

「あっ、試験どうだった？」

電話から、まるで天使のようなボイスが聞こえてくる。言わずと知れた、天宮です。

「完璧だぜ！100%受かったな。」

「じゃあ、もし落ちたら、ジブリのDVD全部私が貰うから。」

「落ちねーからそれは無いな。」

「アハハハハ、冗談だよ。」

「試験終わったし、俺ン家で遊ぼうぜ。」

「いいよ。後で大和の家に行くね♪」

……彼女って、イイね！毎日が輝いてます。幸せって、こういう事なんだな。

2

「嫌だ、お母さん！行かないで！」

「お父さんがいるでしょ？これから、お父さんと二人で暮らすのよ？」

「嫌だ！お母さんも一緒に……」

「……いずれ、必ず会えるわよ。……必然的にね。じゃあね♪」

「お母さん！……うわ……ん。」

ピンポン！

はっ！？やべえ。寝てた。

……嫌な夢だな。昔の事を思い出した。

……インターホン？多分、天宮だな。

「……はい。今行くよつと。」

ゆっくりと玄関のドアを開けると、マイハニーが笑顔でそこに立っていた。う……ん……、かわいい。

「来たよ♪」

「あー…、とりあえず上がってくれ。」

天宮を家に招き入れる。天宮が家に居るとか、色んな意味で興奮してきた。そもそも、女の子が俺の家に遊びに来るなんて初めてな訳で……。

「谷川君の家、初めて来たけど…、誰もいないの？」

「ん？言ってなかったっけ？俺、一人暮らしだよ。」

「ええ！？高校生で一人暮らし！？スゴイ！お父さんとお母さんは何をしてるの？」

「両親は俺が五歳の時に離婚して、父さんは俺が六歳の時に、自殺した。」

「……え？なんか、ごめん。聞いちゃいけなかったよね…。」

「ん？いや、別に気にしてないよ。大丈夫。」

両親の事なんか、……どうでもいいんだ。だって、天宮が家にいるんだぜ！？これはもう、テンション上げていかなきゃ♪

「そのソファーに座ってて。なんか飲み物取ってくるから。」

「あつ、ありがとう。」

さして、何がいいかな？お酒イッちゃう？いや、まだ早いな…。

ここでのチョイスはカルピスだ！

「お待たせ〜♪」

カルピスをテーブルの上に置いて、天宮に飲むように奨める。天宮はカルピスを飲みながら、キヨロキヨロと室内を見回している。ふっふっふっ…、そんなに辺りを見回しても、怪しい物…：エロい本や大人の玩具は出てこないぜ？何たって金庫に隠したから、見つかるはずがない！

「…：本棚大きいね。あそこに、Hな本とか隠してるの？」

ホラ来た！ふふふ…、あそこには、ジブリ関連秘蔵の書物と、ジブリのDVDしか置いてないぜ。

「隠してねーし。つか、エロ本自体持ってねーよ。」

「へー！じゃあ、あそこの本棚漁っていい？」

「どうぞ〜。」

ふふふ…、好きなだけ漁るがいい！天宮が本棚に向かって進み始めた…。……………四つん這いで！

イイよ！なんか、イイね天宮！そんな事してると、リアル滅亡ニートで、獣に変身して後ろから襲っちゃうぞ♪…：ただ、残念なのが制服のスカートの下に、ジャージを着てるから、エロさが半減されちゃうんだよね。

「あ！これは…」

ん？何か見つけたのか？やべえ、隠し忘れか！？

「中学の卒アル！ねえ、見ていい？」

……なーんだ卒アルか。ビビって損した。

「ん？ああ…、別に見てもいいけど…。つか、結衣飯まだだろ？作ってる間、見てくれ…。」

「え？いいの？……谷川君って、意外と家庭的ね。」

「意外とは余計だ。」

天宮が上機嫌で卒アルをめくり始めたので、その間に晩御飯を作ろう！谷川大和の15分クッキング！の時間だよ♪

く谷川大和の鶏モモ肉焼きく

……なんだこのコーナー。めちやくちや家庭的なコーナーだな。

まあ、なんでもいいや。

まず、鶏肉を用意する！

焼く！

完成！

……え？レシピ省きすぎ？じゃあ、醤油・調理酒・味醂を適当に混ぜて、タレを作る！そこに大根おろしを入れたり、林檎をすったりしたら、より一層美味しいぞ！鶏肉はある程度火が通ったら、今のタレをぶっかけて絡める！仕上げにブラックペッパーを入れると、味がしまってイイ感じになるな…。これで、ご飯が進む事間違いない！

……なんだコレ？シリーズ初の試みだな。ここだけの話、作者が初めて作った、思い出の料理らしいぞ。

「おい、出来たぞ。運ぶの手伝ってくれよ。」

「アハハハハハハ！ヒー、ヒー…。」

……なんだ？天宮が死ぬ程爆笑している…。一体何を見てるんだ？

「おい、どうしたんだよ？」

「愛すべきジブリ同好会・会長、谷川大和君！アハハハハハ！このページに、将来の夢は風の谷に行く！って、アハハハハハ！」

……あー、中学の黒歴史が暴かれてしまった。なんか、恥ずかしい♪

く谷川大和く

HP 20／20

将来の夢は風の谷に行く！恥ずかしさアップ！

テンションダウン！

「谷川君って、いつからジブリが好きなの？」

「あー…、五歳くらいの時から、毎日見てたんだ。」

「へえー、五歳から毎日かあ。」

……そう、あの頃は、ジブリだけが毎日の楽しみだった。ジブリだけが……。

「……谷川君？どうしたの？そんな悲しそうな顔して…。」

……駄目だ、あの頃を思い出すと、どうしてもテンションが上がらない。…沈んだ気分になってしまう。

「…ねえ、谷川君？何があったの？変だよ…。」

「……結衣。いや、なんでもないんだ！さあ、飯食べようぜ。冷めちゃうよ？」

「……私に言えない事なの？私には言いたくないの？」

違う。話してしまえば、絶対に泣いてしまう。そして、辛くなる…。あの出来事は、俺にとって最大の精神的障害だから…。

「お願い、そんな顔しないで！そんな谷川君見たくない…。私に出来る事なら、なんでもするよ？力になりたいの…。谷川君を支えたい！」

……………天宮。

「……自分の全てを話すのは、結衣が初めてかもしれない。聞いてくれるか？」

「……うん、聞かせて。何があったの？」

「……15年前になるかな。俺が三歳の時か……。まだ、両親が離婚する前だった。母さんはどこかの研究所の博士で、仕事一筋の人間だったよ……。父さんは、なんて言うか……専業主婦……。じゃねーや。専業夫だな。父さん仕事してなかったんだよ。母さんの給料で充分食っていけたからな。」

「……専業夫？」

「ああ、専業夫なんて聞こえはいいけど、実際はニートだ。仕事してねー訳だし。普通の家庭と逆だろ？そんな父さんに、母さんは愛想つかせて浮気。父さんは浮気の事実を知らながらも、何も言わなかった……。わかってたんだよ。自分の弱さ……立場を。けど、父さんはよく遊んでくれたし、可愛がってくれたから、嫌いじゃなかったんだ。」

「……………」

「まあ、普通じゃないナリに幸せだったよ。少なくとも俺は。そんなある日、両親は突然離婚したんだ。父さんは訳を言わなかったけど、母さんが浮気相手と結婚するために、離婚したんだと思う。俺は父さん側に引き取られた……と、言うよりは押し付けられたって感じだったな。」

「……………」

「それで、父さんと二人暮らしが始まったんだ。運よく仕事も見つかって…、最初の頃は大変だったけど、それなりに楽しかった。父さんが仕事に行ってる間は、退屈だからさ、それで父さんがジブリのビデオを買ってくれたんだ。んで、毎日ジブリを見てたんだ。幼いながらに感動したよ。ジブリの凄さに…。そんなある日、気付いたんだよ。父さんの様子が、日を重ねる毎におかしくなっている事を。今考えてみれば、当然だよな。今まで働いた事が無い父さんが、いきなり働きながら子育てだぜ？過労とストレスの板挟みで、ノイローゼ。」

「……………ノイローゼって。」

「それで、遂に起こってしまったんだ。最悪の出来事が…。」

谷川大和、6歳

「ただいま……………」

「あっ、お父さん！おかえりな……」

……なっ、なに？お父さんの様子が、変だ……。なんて言うか、恐いし……不気味！

「へっ…、へへへ。お父さんな、今日で会社クビになっちゃったんだ……」

「え？クビ？クビって、なに？お父さん……」

「ひへへ…、もうお前なんか死ね！っていう、死刑宣言みたいなモノさ……」

…ぶつぶつ言いながら、お父さんは台所の方向に向かって歩いて行く。こわい、こわいよ……。

「……………！！！！」

驚き過ぎて、声が出ない。お父さんは……包丁を持って、突然暴れ狂った。

「ギャハハハハ！会社もクビになって、俺のガキまで馬鹿にしゃがる！もう終わりだ！妻には逃げられるし、会社はクビになるし、もう死ねって事だよな？」

目玉は充血して真っ赤になって、ヨダレを垂らしながら暴れ狂うお父さん！家具という家具を破壊して、もはや正常ではなかった。

「ハアーツ、ハアーツ、ハアーツ……。……。大和、こっちおいで。お父さんが抱っこしてあげる♪」

嫌だ……。怖い！嫌だ！！

「……………なんだ？来ないのか？」

「……………お父さん、どうしちゃったの？」

「……………見ればわかるだろ糞ガキがあああああああ！！！」

えっ！？お父さん、その包丁で僕を刺すつもりじゃ……………。

……………ドスッ！

「ああああああああああああああああああああああああああああああ！いつ、あっ……………。ぐうつ……………。」

痛い！刺された！血が……。脇腹から血が大量に！嫌だ……。死にたくない。助けて……。助けてお父さん！

「……………！！！？？」

信じたくなかった。お父さんは首に包丁を自分で刺し、大量の血を口から吐き出した。

「ごぶつう……クビに因んで……グフツ、……首に刺してみまし……
…た。」

そのまま、糸が切れた操り人形のように、お父さんは力無く崩れ落ち、僕の上に倒れ込んできた。家の中は血の海。まさに、惨劇と呼ぶに相応しい光景だった…。

「うつ…、ヒック…。何だよこれ…。ううう……。誰か…。誰か……。嫌だ…。助けて。誰か……。助けてえええええええええええ！！」

「ゴツブウ……!!」

びちやびちやびちやびちやびちやびちや……。

降り注ぐ父親の血液！自分の上にいるお父さんを退かそうにも、僕の力じゃ動かせない……。それに、動くとき刺された傷が凄く痛くて、どうする事もできなかった。

[illegible]

「……………そんな、酷い事が？」

「ああ、あの後近所のおばさんが、見つけてくれてな。即、病院に運ばれて、命だけは助かった。」

「…………お父さんは、どうなったの？」

「病院で死んだ。その後、退院した俺は、親戚に引き取られたけど、なんか居心地が悪くてな…。無理言って、高一の時から一人暮らしをさせてもらったんだ。」

「…………谷川君。」

「…………今でも、あの時…の、父さんは…恐ろしく感じるよ。その恐怖を…ずっと、ジブリが埋めてくれた…。」

「…………元気出して！って言いたいところだけど、無理だね…。：…………よし！」

何が、よし！なんだ…？

「今度から、私がジブリの替わりになるわ！何たって、谷川君の彼女だもの。辛い事や、悲しい事を、一緒に乗り越えよ？」

…………温かい、なによりも温かい涙が、頬を流れた。この涙は…、過去の辛い思い出のせいじゃない。自分の事を、こんなにも想ってくれている人がいるんだ！という、うれしさと、感謝の涙…。

「あつ、谷川君……？大丈夫！？」

「だ……大丈夫……、大丈夫だよ……。ありがとう、結衣。」

「谷川君……。」

天宮となら……大丈夫。二人でなら、乗り越えられる……。どんな事があっても！ありがとう、ありがとう……。そして、よろしくお願ひします……。

「さあ、飯にしようぜ。せっかく作ったのに、冷めちまうよ。」

「そうだね、食べようか。」

その日食べた夕飯は、いつもより…、しょっぱい味がした。

（EARTH・FANTASY第6研究室）

「御呼びでしょうか？ドクター谷川。」

助手の丹蛭陀^{にひるだ}を、研究室に呼び出した。何故なら、とっても大事な研究を行うため、彼に協力してもらわなければ。

「ねえ、例のアレと私の大和ちゃんって、どっちが強いかしら？」

「暴虐魔獣・ディノガラウと、アダムを倒し者ですか……。当然、倒し者でしょう。EARTH・PERIODが開放されたら、彼にぶつけるつもりで？」

「ええ、そう考えてるけど？」

「まあ、普通に闘えば勝ち目は無いでしょう。普通に闘えば、の話ですけどね。」

「あの計画のためには、少しでもデータが欲しいの。ディノガラウのLVをMAXまで底上げして。」

「わかりした。」

大和ちゃん、あなたの全てが欲しいわ……。あなたの全てが！あなたの力が！！

「ごちそうさまっ！あー、美味しかった♪谷川君の料理が美味し過ぎて、びっくりしちゃった。」

満足そうな顔で、夕飯を平らげた天宮。今夜の料理は、上手く出来た方だろう。

「ああ、我ながら美味かった。」

「なんかお腹いっぱい…。」

「結構ポリウムあるから…。どうする？酒でも飲む？」

「あっ、未成年なのに、いけないんだ…。」

「ちょっとだけだよ。ジブリ見ながら飲もうぜ。」

「チューハイ一本くらいなら、許してあげる♪」

なんだかんだで、天宮も結構ノリ気だな…。氷結辺りでもイッとか。

注意！

未成年の飲酒は禁止！

……でも、飲みたい時もあるよね。

飲酒運転も禁止！

代行を頼みましょう♪

「「カンパニー」」

酒盛りが始まった…。ジブリは、耳をすませば。を、再生しながら、天宮と二人で酒を飲む。嗚呼…。マジ最高！マジ幸せ…。

～2時間後～

「雫！結婚しよう！」

飲み過ぎました♪チューハイ四本に、ビール二本。さらに、秘蔵の日本酒をラッパ飲み…。もう、ベロンベロンです…。天宮も似たような状態になっている。まあ、当然か…。

「ああ…。歩けない。帰れないよ…。たーにかゝわ君！今日とは…。めで♪」

天宮がベロンベロンになりながら、話しかけてくる。泊める？全然オツケーさ！

「フニャフニャ…。」

「おいおい！結衣！？」

天宮が、俺にもたれ掛かるように抱き着いてきた。酔っ払い過ぎじゃね？

「……………抱いて。」

「はっ？」

んんんんん！！？！？

今、何て言った？

「酔った勢いで、言ったんだからね……。普段なら、恥ずかしくて、こんな事言えないよ……。」

マジですかい！？今夜で俺は、童貞卒業ですか！？

「……えっ？いきなりだな。」

「…………いや、なの？」

……上目づかいで、俺をまっすぐに見つめてくる天宮！可愛い過ぎるっ！！しかも、しかもっ！制服がちよっとはだけで、なんかイイ感じでエロいよ？ヤベー！いろんな意味でヤベーよ！あっ！？天宮が、ボタンをゆっくり外し始めた！制服を脱ぎ始めて、胸が！……：襲っていいカナ？天宮の顔が、真っ赤だ。気分が高揚しているのか、酔っ払っているのか、緊張しているかのどれかだろう。……完全に下着姿になってしまった天宮。

「……………！！！」

傷だらけの体。常識では考えられない、傷の数々が、天宮の体に痛々しくついていた……。EARTH・PERIODの影響だろう。あまりにも痛々しく、直視できない。つい、顔を背けると、天宮が消えそうな声で呟く。

「…………やっぱり、傷モノの女は、…………いやなの？」

ああ…、今わかった。デートの時や、普段制服の下にジャージを着ていたのは、身体についた傷を隠すためだったのか……。こんなにも

……こんなにも！……その純粹さが、ひどく可愛く見えた。

「……たにかッ！！」

勢いよく天宮に抱き着いて、唇を重ね合わせる。そのままソファに押し倒し、下着をゆつくりと外す。

「……傷だろうが、なんだろうが、結衣は結衣だ。好きだ、愛してる……。」

さようなら、童貞！

男、谷川大和逝きまーす！

（谷川大和）

HP 20／20

合体！

ハッスルハッスル！

童貞を卒業した！

翌日、EARTH・PERIODが復旧。新たなニート伝説が、始まる……。 （かもしれない。）

〽翌日の朝〽

「……………んっ。」

……俺の横で、天宮がかわいらしく寝返りをうっている。さすが、マイハニー！可愛い過ぎ！

「……………あ？メール？なんだろう？」

携帯に、受信メールあり！なんだこのアドレス？しらねーアドだな。とりあえず開いてみるか…。

〽お知らせ〽

本日より、EARTH・PERIODが復旧いたしました。それと同時に、大規模なアップデートを行いました。新しいEARTH・PERIODの世界をご覧ください。

……マジで！？つか、アダムを倒したんだから、もうゲーム世界で闘う必要なくなっけ？……………ん？自分のステータスが、確認できるのか。どれ、ポチッとな。

〽そらとぶユパ様〽

LV 12000000

HP 60000000／60000000

称号 アダムを倒し勇者

職業 皇帝ニート

武器 聖天自堕落巨神剣

防具 青き血で染まった衣

能力 ニート・THE・END

プレイヤーRANK 2580位

戦績 0勝0敗0引き分け

……なんか、懐かしいな。あれから半年以上経つのか……。……天宮が起きたら、爆遊会館に行くかな。

………んんん！？ちよつと待て！戦績が0勝0敗0引き分け！？なんでリセットされてる訳？

「……あつ、おはよう。……どうしたの？携帯なんか見つめて……」

あ、天宮が起きた。俺は、天宮に携帯を差し出し、外出の準備を始める。

「え！これって……」

「支度しろ。爆遊会館に行くぞ！」

「あ、私の携帯にもメールが。」

（AMAMIYA）

LV 208763514209

HP 390541238712／390541238712

職業 女神

武器 勝利の神弓・バ

防具 女神の衣

能力 極楽殺弓

プレイヤーRANK 1位

戦績 0勝0敗0引き分け

……やっぱり、ランク1位の天宮は、とんでもないステータスだ。
勝てる奴なんか、絶対にいないだろ…。

……と、いう訳で早速天宮と爆遊会館にGO！GO！だぜ。

＼ネットカフェ・爆遊会館＼

「……なにこの行列？」

そうなのだ！爆遊会館に行ったはいいが、凄まじい行列が出来てる
んですけど…。マジなんだよコレ？

「多分、総理の会見のせいで、一般人もEARTH・PERIOD
の存在を知っちゃったんだね。（前作42話）」

あー…、そういえば、あのオッサンは総理大臣だったんだっけ？そ
うかー…、あのオッサンのせいで、こんな行列が…。総理の馬鹿野
郎ー！！

「どうする？列ぶ？」

「私は列ぶよ。谷川君は？」

「んーっ…、今日は普通のカフェに行く。」

「え？」

「一般人がEARTH・PERIODの存在を知ったんなら、ネッ
トなんかで話題になってるはずだからな。まっ、簡単に言えば、情
報収集ってところか…。」

「ふーん…、わかったわ。私は、EARTH・PERIODにINするからね。谷川君なら、意味わかるよね？」

多分、天宮の言葉の意味は、長時間プレイするから、待ちくたびれたら先に帰ってくれ。と、言う意味だろう。約半年ぶりのEARTH・PERIODだ。気持ちは、わからなくもない。そして、待つ事2時間30分。ようやく、店内のカウンターにたどり着いた、…けど、いつまでたっても、いつもの店員が姿を現さない。なんだ？忙しいのか？

チーン！チーン！チーンチーンチーン！！

…天宮が、カウンターに置いてある呼び鈴を凄まじい勢いで、連打している…。やめよう？恥ずかしいんだけど…。

「大橋進でてこーい！」

「……大橋？」

「店員の本名だよ。知らなかったの？」

店員の名前は、大橋進って言うのか…。

「すみません！お待たせしま…：…って、チャンピオンとアダムを倒し勇者！？これはこれは…、ようこそいらっしゃいました。」

「LV無制限・無差別区域！！」

「あっ、普通の3時間パック。ネット席で。」

「わかりました。チャンピオンはこちらに……。倒し勇者は……って、えええ！？ EARTH・PERIODをプレイしないのですか？」

なんで驚くんだろう？

「うん、しないよ。早く案内してくれ。」

ぶっちゃけ、EARTH・PERIODの世界はおっかないしなく。アダムも倒したし、プレイする意味もあんまり……。正直、プレイ意欲が湧かない……。EARTH・PERIODが復旧したのは嬉しいけど、今日はゆっくり、普通のネットカフェで過ごそう……。

（谷川大和）

HP 20／20

やる気 0

テンションダウン！

くそらとぶユパ様く

V S

く@・ネオ・βく

「ふん、ニートが調子コキやがって。秒殺してやる!」

……………ん?なんでいきなり、こんな事になってるかって?それは、さかのぼる事数時間前……………

く3時間前く

店員に、狭く仕切られた17番のネット席に案内される。

「では、ごゆっくりく。」

少し窮屈で、目の前にあるものは、パソコンのみ。さーて、お言葉通り、ゆっくりしますか!

ドリンクを補給して、いざ戦闘?開始!

とりあえず、EARTH・PERIODで検索してみる。

「お?けっこう出るな。ん?EARTH・PERIOD攻略サイト?どれ…」

マウスのカーソルを、攻略サイトに合わせてクリックすると、黒いデカデカとしたEARTH・PERIODの文字に、小洒落たキラ

キラが背景のサイトがでてきた。

ほえゝゝ、手が込んでるな。あん？オススメ職業一覧？えい、ポチッとな。

〈管理人厳選、オススメ職業一覧〉

・竜騎士

最初から竜のペットが使役できるため、LVが低い内はかなり強い。

・天使

始めから身体能力、天使の翼が使える。空中戦ができるため、便利。

・ギャンブラー

LVUP時、サイコロが出現。出た目×経験値×LVで、一気に何倍ものLVUPが可能。そのため、ステータスは低め。

……いろんな職業があるんだな。

………んん！？なんだこれは！！！

〈管理人厳選、絶対に選んではいけない、最弱職業〉

・ニート

初期HPが2しかない。能力の滅亡ニートも意味不明。報告によると、好きな物はなんですか？と聞かれ、ハンバーガーと答えたら、目の前にハンバーガーが出現した。ステータスも全職業最弱！

・ひま人

能力が使えない外れ職業。

・廃人

ステータスが桁外れに高い。が、HPが0。戦闘開始とともに敗北する。

ニートが最弱！？馬鹿な…。あんなに強いのに？納得いかねーな！……ん？ペットを飼う方法？ユパ竜って、どうやって従えたんだっけ？

くペットの飼う方法く

・ノーダメージで、圧倒的な強さを強さを見せ付け、モンスターに完全勝利する。

・職業、○○使いで、種族に合ったモンスターを捕獲する。

例 獣使い↓獣系捕獲可能

成る程。確かに、ユパ竜と戦った時は、ノーダメージで勝ったな。巨神兵変化でぶっ飛ばした記憶が…。

あん？掲示板？どれ、覗くだけ覗いてみるか。えい、ポチツとな。

…：そこで、とんでもないものを見てしまったんだよね。あんまり思い出したくない。むなくそ悪くなる。

く掲示板く

ーーーーーーーーーーーーーーーー

22・管理人

ニートとかカモだぜwww

ヨワスwww

10人とかどんだけwww

ーーーーーーーーーーーーーーーー

21・ニート乙さん

今日ニート10人倒した！

ニート雑魚www

ーーーーーーーーーーーーーーーー

20・管理人

初心者区域でニート狩り

ザマアザマアwww

EARTH・PERIOD名

@・ネオ・β

ニートかかって来い！

|||||

19・ANNEX姐御

ニートは倒しやすいよ。

LV上げに最適wwwwww

HP2しかないしwwwwww

|||||

なんじゃこりゃー！！！！なんでニートがボロカスに叩かれてる訳
！？自分の職業だけに、めっちゃムカつく！だいたい、アダムを倒
した職業もニートだぞ！

……………こいつらに、本当のニートの強さを教えてやる！！！！

く谷川大和く

HP 20／20

激昂！

テンションMAX！！

やる気100%！！

…………と、いう訳で、EARTH・PERIODにログインして、
攻略サイトの管理人、@・ネオ・βを捜し出し、勝負を挑んだ！

くそらとぶユパ様く

VS

く@・ネオ・βく

「あん？ 皇帝ニート？ まあ、ニートはニートだろ。余裕だね。」

馬鹿にしたような表情でしゃべる@・ネオ・β！ つーか、キモいなコイツ。ボサボサの不清潔な長髪に、ジーンズにシャツをINしてやがる…。

「ニートは最強だ。それを今から見せてやる！」

①・ネオ・β①

LV 5804711

HP 105000 / 105000

職業 竜王

武器 竜槍・ゴゴゴ

防具 龍王峽・穂波

能力 竜から授かりし力

プレイヤーRANK 999位

戦績 1204勝54敗0引き分け

……EARTH・PERIODが復旧して、まだ間もないのに、もう1200勝以上してるのか。かなりやり込んでるな。相当強いのか、ニートをカモにしてここまで来たかのどっちかだろう。まあ、どちらにしろ、プレイ時間は廃人の域に達しているに違いない。

「なんだお前？まだ0勝じゃんか！なのに、なんでLVがそんなに高いんだ？不正行為か？チートか？」

「……一つ、教えてやる。ニートは……最強の職業だ！」

「答えてになってねーんだよ！お前ムカつく！僕の攻撃で死んじやえ！」

①そらとぶユパ様①

①・ネオ・βの攻撃！

ドラゴン召喚！

ペット出現！

INFINITY・FLUSH

LV 100000

能力 潰滅の鎮魂歌

ペットとのタッグ攻撃！

@・ネオ・βが、ペットの竜を召喚して、カッコつけながら竜に跨がり、俺に突っ込んで来る。

……遅くね？アダムに比べれば、超動きが遅いんですけど。まるで、スローモーションだ。アダムなんか、文字通り瞬間移動してたからな……。この程度の相手なら、負ける気がしない。相手の竜が、阿保みたいに大口を開けて、俺に噛み付こうとしている。なんか、マヌケな竜だな……。

くそらとぶユパ様く

INFINITY・FLUSHの攻撃！

噛み付き！

MIS！！

そらとぶユパ様は回避した！

余裕で噛み付きを回避すると、まるで狙い澄ましたように、@・ネオ・βの斬撃が俺を襲う！

くそらとぶユパ様く

@・ネオ・βの攻撃！

竜槍・ゴゴゴ！

突き！

MIS！！

そらとぶユパ様は回避した！

さて、今度はこっちの番だ。一撃で仕留めてやる！

く@・ネオ・βく
そらとぶユパ様の攻撃！
滅亡ニート！
ジブリ世界！
巨神兵変化！
我が名はオーマ！

「……………は？」

ア然とした表情で、巨神兵になった俺を見上げる@・ネオ・β。まずは、ペットからやるか。将を射んと欲すれば、まず馬を射よ。だな。さーて、蹴り飛ばすかな。

くINFINITY・FLUSHく
そらとぶユパ様の攻撃！

蹴り！

HIT！！

即死！

戦闘不能！

「うわあああゝ！」

ペットの竜が戦闘不能になったため、@・ネオ・βは丸裸。こんな事、ありえない！……みたいな顔で、呆然と立ち尽くしている。なんだか、弱い者いじめをしているみたいで、虚しくなってきた…。
……やゝめた。こんな奴倒しても、おもしろくない。

くそらとぶユパ様く
巨神兵変化解除！

元の状態に戻った！

「……………え？」

「やめた。お前みたいな雑魚倒しても、なんの意味もない。もう、ニート馬鹿にすんなよ。」

踵を返し、@・ネオ・βに背を向ける俺。なんか、一気に冷めちゃったな。

……ドスッ！

「がっ!？」

くそらとぶユパ様く

@・ネオ・βの攻撃！

竜槍・ゴゴゴ！

ドラゴンスパイラル！

CRITICAL HIT!!

HP 60000000 / 20008513

なっ!？背後から、槍で刺された？やべえ…、見事に背中から胸にかけて、槍が貫通してやがる。こっ、この野郎…。前言撤回、倒さなければ、気がすまねえ。覚悟しやがれ！

「アハハハ。バーカ、お前なんか、負けてたまるか！降参なんか、一言も言っていないし」

くそらとぶユパ様く

ナウシカ鎮魂歌！

HP全回復！

覚醒！

能力発動！

ニート&END！

虐殺！

さて、今回初使用の虐殺。一体どうなるか、俺にもわからん…。

くそらとぶユパ様く

相手が死ぬまで、攻撃を加え続けます。HPが0になっても、肉体が滅びなければ、そのまま攻撃を続けます。ただし、現実世界にかかる付加は5倍となります一定時間、任意の行動は不可能です。

虐殺START！！

ルドウン竜の翼強制使用！

……タチ悪い能力だな。いろんな意味で、使用するのには控えよう。無理矢理体に刺さっている槍を引き抜き、暴走を開始する俺の肉体。虐殺は、アダム戦の時変化した、巨人の人間バージョンだな。体があることか…し。引き抜いた槍を、真っ二つにへし折り、地面に投げ捨てる。体から血が噴き出しているのは、気にしない…。

く@・ネオ・βく

そらとぶユパ様の攻撃！

右ストレート！

HIT！！

HP 105000／5000

ルドウン竜の翼で、@・ネオ・βに接近して、右ストレートを放つ。拳が@・ネオ・βの頬にめり込み、ほのかな体温を感じた瞬間に、

@・ネオ・βが勢いよく吹っ飛んでいく。直ぐさま、吹っ飛んだ@・ネオ・βを追撃すべく、再び攻撃を仕掛ける。

①@・ネオ・β①

そらとぶユパ様の攻撃！

ルドウン竜の翼！

背後に回り込んだ！

捕縛！

@・ネオ・βの首を掴み、そのまま空に放り投げる。

放り投げる！

追撃！

聖天自墮落巨神剣！

自墮落の咆哮！

「めんどくさいな①！」

力任せにぶった切る！

H I T ！！

H P 0

戦闘不能！

W I N そらとぶユパ様

………なんか、虚しいな。無意味な闘いだった……。アダムも倒したし、闘う意味あるのか？ あーあ、EARTH・PERIOD引退か？ どうしようか？

………なんて考えていたら、ヘッドスコープから警報が鳴り響く。なんだ？

①緊急事態発生！①

異常なモンスターが接近中！

データ該当無し！

複數體接近中！

は？ここは初心者区域だぞ？なんでモンスターが？開拓区域だけしか、モンスターは出現しないはず…。

ドスンッ！

……空からモンスターが降ってきた。なんなの一体？

暴虐魔獣・ディノガラウ

L
V
不明

HP
不明

能力 不明

データ該当無し

……パツと見た感じ、ゴリラに翼が生えた珍獣だな。

[illegible]

……は？何匹降ってくる訳コイツら？

ゝ暴虐魔獣・ディノガラウ×13ゝ

……囲まれた！？マジ、なんだよコイツら？

10

「ホンギヤー！」

甲高い鳴き声で、威嚇をしてくるゴリラもどき。13対1か…。勝てるか？

くそらとぶユパ様く

VS

く暴虐魔獣・ディノガラウ×13く

くEARTH・FANTASY第6研究室く

「ディノガラウを、倒し者がいる区域に送り込みました。」

「……そう、データ採集を忘れずにね♪さーて、貴方の力を見せて頂戴大和ちゃん。」

……まずいな、連戦だから、HPが回復されない。しかも、複数のモンスターと戦った事なんかほとんどないぞ。ナウシカ鎮魂歌も、二連続使用は不可能だし……。……ここは、昇華で押し切るか？

くそらとぶユパ様く

ディノガラウ7の攻撃！

魔壊のパンチ！

HIT！！

HP 60000000／23

「グハッ……！」

なっ！？動きが速い！しかも、攻撃力が圧倒的じゃないか……。あと一撃でも喰らったら……。……昇華しかねえな。

くそらとぶユパ様く

能力発動！

ニート&END

昇華！

ステータス限界強化！

一定時間DAMAGE無効！

「うおらあああああ！！！」

自堕落剣を振りかざし、目の前にいるゴリラに向かって自堕落剣を振り下ろす！

くディノガラウ7く

そらとぶユパ様の攻撃！

聖天自墮落巨神劍！

自墮落の咆哮！

「やる気出た〜。」

切り下げ！

H I T！！

H P 測定不能

はあ？なんだよ測定不能って！こうなったら、倒れるまで切り裂き
続けてやる。

「おおおおおおお！！」

〜ディノガラウフ〜

そらとぶユパ様の攻撃！

聖天自墮落巨神劍！

自墮落の咆哮！

「無理だっ〜。」

乱れ切り！

乱れ突き！

H I T！！

H I T！！

H I T！！

H I T！！

H I T！！

H I T！！

H I T！！

H I T！！

H I T！！

「……ハアツ、ハアツ、これだけやれば！」

HP 測定不能

そ、そんな！昇華でステータスを限界強化してるんだぞ？なんで死
ない？

くそらとぶユパ様く

ディノガラウ7の攻撃！

ディノガラウ2の攻撃！

ディノガラウ4の攻撃！

ディノガラウ10の攻撃！

ディノガラウ1の攻撃！

魔壊のパンチ！

魔壊のパンチ！

殴打！

エルボー！

魔壊光線！

HIT！！

HIT！！

HIT！！

HIT！！

HIT！！

DAMAGE無効！

HP 60000000／23

あつ、危ねく。昇華を使ってなかったら、今の袋だたきで死んでた
な。くつそく、敗色濃厚ってやつか？……時間が無い。昇華の効力
が切れたら、100%殺される！

「はあああああつ！」

くディノガラウ6く

そらとぶユパ様の攻撃！

左アッパー！

HIT！！

一匹のゴリラに接近して、姿勢を低くして胴体にアッパーカットを繰り出す！その衝撃で、ゴリラの体が浮き上がった。すかさず左腕に力を込めて、左腕一本でゴリラの体を頭上に持ち上げる。そして、右手の自堕落剣で、ゴリラの心臓を狙い、真下から突き上げる！

持ち上げた！

真下からの強襲！

CRITICAL HIT！！

HP 測定不能

なっ…、なんで倒れない？コイツら、かなりヤバイモンスターだな…。さーて、どうすれば勝てるかなあ？

11

「……………はあ。終わったな。」

くそらとぶユパ様く

昇華の効果が切れた！

ステータスが元に戻った！

まさか、アダムを倒した俺が、こんなゴリラもどきに負けるなんて……………死んだカモ。

「ホガアアーーーー！！」

「ウホウホウホ！！」

「ギャホオガーーーー！！」

ゴリラもどき達が、一斉に騒ぎ始めた！くそつ、まとめて襲い掛かってくるつもりか！？

「こいやあーーーー！！！黙って殺されるつもりは、ねえからなあああああ！！！！」

「……………うん、谷川は死なないよ。だって、私が敵を殲滅するんだもん♪」

くそらとぶユパ様く

VS

く暴虐魔獣・ディノガラウ×13く

乱入者出現！

＼A M A M I Y A＼

＼そらとぶユパ様＼

＼A M A M I Y A＼

V S

＼暴虐魔獣・ディノガラウ×13＼

「えっ、……結衣！？どうしてここに？」

天宮が、勝利の神弓・バを左腕に抱えながら、背中の翼を羽ばたかせ、華麗に降り立つ。……なんで？どうしてここに？

「……結衣、なんで俺が……」

「話は後！まずはコイツらを！！」

俺の言葉を遮るように、天宮が神弓・バを構えながら叫ぶ。確かに、天宮の言う通りだ。まずは、この状況を何とかしなければ！

「むっ！？ドクター！倒し者とディノガラウの間に、イレギュラーが！」

「……イレギュラー？乱入者が現れた？チッ、邪魔だなあ。不純物は、廃除しなければ！」

「丹蛭陀、この戦闘に介入しなさい！イレギュラーを取り除かねば……。」

「了解しました。」

「……ふふふ、この施設、EARTH・FANTASYの力をもつてすれば、EARTH・PERIOD内ならピンポイントでプレイヤーを転送出来るからね。頼んだわよ、丹蛭陀！」

「ディノガラウ！」

AMAMAYAの攻撃！

滅亡のアロー！

HIT！！

HIT！！

HIT！！

HIT！！

HIT！！

HIT！！

HIT！！

HIT!!

HP 測定不能

「ん？攻撃が効かないの！？」

「気をつける結衣！そいつらは、攻撃が全然効かないんだ！」

「へえ…、じゃあ、これはどうかな？」

（AMAMIYA）

特殊アイテム使用！

異次元の武器倉庫！

武器CHANGE!!

武器 超絶長刀・竜輝

……なんだ？あの武器。天宮の新武器なのか？……日本刀みたいな形だな。ただ、普通の刀より、リーチが三倍くらい長い！どうするつもりだ天宮？

「谷川君、心臓は狙ってみた？」

「駄目だった。奴らびんびんしてたぜ。」

「じゃあ、首を跳ね飛ばしてみた？」

……天宮、表現がストレート過ぎる！この小説は、R指定してないんだからな！後で設定しておかなければ…。

「……首はまだなのね？じゃあ、試す価値はあるみたいね。」

くディノガラウ1く

AMAMIYAの攻撃!

蹴り!

HIT!!

HP 測定不能

天宮が、ゴリラもどきの腹におもいきり蹴りをいれる。すると、ゴリラもどきの姿勢が少し崩れ、若干前屈みになる。すかさず天宮は、ゴリラもどきの後ろ頭を両手で掴み、地面に向かって勢いよく押し込む!その反動で、ゴリラもどきは俯せになりながら、地面に倒れ込む形となる。そのまま右足でゴリラもどきの頭を地面に押さえ付け、首を狙って一直線に超絶長刀・竜輝を振り下ろす。

くディノガラウ1く

AMAMIYAの攻撃!

姿勢を崩す!

足で押さえ付ける!

超絶長刀・竜輝!

斬殺!

CRITICALHIT!!

即死!

ディノガラウ1戦闘不能!

天宮が刀を振り下ろした瞬間、大量の鮮血が舞い散り、ゴリラもどきの首が吹き飛ぶ!よっ、よし!一匹倒したぞ。あと12匹!

「…………おや?困りますねえ。これは、倒し者と暴虐魔獣の闘い!イレギュラー…………いや、ランク1位のAMAMIYAは引っ込んでいなさい。」

なっ、何だコイツ！？急に目の前にでてきやがった！一体何者だ！
？

12

「研究員丹蛭陀」

LV 100

HP 110 / 110

職業 ニート

武器 自堕落ソード

防具 コスプレセット

能力 滅亡ニート

戦績 19勝2敗4引き分け

プレイヤーRANK RANK外

うお!?!?なんか懐かしいステータスが!?!?プレイヤーランクがRANK外?そんなんで、俺や天宮と戦うつもりなのか?……いや、ニートの能力を甘く見てはいけない。滅亡ニートは、LV差を跳ね返すくらいに、強力!

「ふふふ、はじめまして倒し者。そして、チャンピオン。私、EARTH・FANTASY研究職員の、丹蛭陀です。よろしく。」

「……その研究員が、なんの用?あなた、EARTH・PERIODの管理・運営側でしょう?」

ドスの利いた声で、天宮が丹蛭陀とかいうやつを睨みつける。丹蛭陀か…、黒いスーツに赤いネクタイを着けて、なんかカッコイイな。背が高いし、真っ赤な髪。ホストか?いや、研究員とか言ってたな。

「ちょっとした実験を、ね♪」

「実験？」

「倒し者の力は、どれほど強力なのか、試しているだけの簡単な研究さ。まあ、邪魔が入ったから、私が潰しに来ただけだね。」

「……へー、邪魔って、ひょっとして私の事？」

「おもしろい事言うんですね。貴女以外誰がいるんです？」

「……やべえ、天宮めっちゃキレてる。眼光が異様だ……。まるで、獲物を狩る虎みたい……。」

「AMAMIYA」

VS

「研究員丹蛭陀」

「ウホウホウホ……!!」

なんだ！？ゴリラもどき達が騒ぎ始めたぞ？

「…………負け人間が、黙ってろ！」

「ディノガラウ2」

研究員丹蛭陀の攻撃！

握撃！

HIT!!

即死！

……ゾツとした。能力も武器も使わず、基本攻撃のみで、あのゴリラもどきを一撃で葬った！左手で首を掴み、丹蛭陀が力を込めると、鈍い音と共に、ゴリラもどきの首が胴体から離れる。握力で、首を潰しやがった！何なんだ？あの丹蛭陀とかいう男。

「この化け物共、元々人間だったんです。」

は？なんだって？

「なっ、何を言って……」

「EARTH・PERIOD内で死んだ……そうですね、魂。と、でも言うのでしょうか？それは、何処に逝くと思います？」

……魂？は？死んだら？逝く？

「……ふっ、訳がわからない。……みたいな顔してますよ？」

……何なんだ？

「では、せっかくなので教えてあげよう！私達の目的をね♪」

……何なんだよコイツ！？

「その必要はない。女の勘が告げている！お前は、危険だってね。今、ここで死んでもらう！」

（研究員丹蛭陀）

AMAMIYAの攻撃！

超絶長刀・竜輝！

MISS!!

「……殺すぞクソ女!! 意気がってんじゃねえ!!」

研究員丹蛭陀の攻撃！

滅亡ニト！

ワールド反転！

「ジブリ世界じゃない？ 暗黒世界！？」

)
 A
 M
 A
 M
 I
 Y
 A
)

記憶の改竄！

「ぎゃあああああああああああああああああああああ
あああああああああああああああ……！……！……！いつ、嫌つだ……
！！あああああああああああああ……いっ、嫌いだ……」

なつ、何だ！？天宮が急に苦しみだしたぞ！しかも、苦しみかたが尋常じゃない！

「おいっ、結衣に何をしたんだ!!」

「ん？ 気になります？ んゝ…、そうですね、簡単に言えば、自我の崩壊。精神崩壊。人間の尊厳を廃除。まとめて言えば、彼女を廃人にしていきます。」

「ふっ、ふぎけるなああああ！……！いますぐ止めろ！……！」

「……断る。と、言ったら？」

「……お前を、滅ぼす!!」

13

「ふ〜ん、じゃあ……こうしよう。あと残り11匹のディノガラウを全て倒して、さらに僕を倒せば、攻撃は止めるよ。ただし、彼女が崩壊するまで残り3分！さあ、倒し者よ！私達に君の力を見せてしろ！」

「……殺す！」

くそらとぶユパ様く

V S

く研究員丹蛭陀く

く暴虐魔獣・ディノガラウ×11く

くつ、丹蛭陀を守るように、ゴリラもどき達が集まり、威嚇してくる。あと3分で、天宮の人格が崩壊する！？そんな事、絶対にさせねえ！

くディノガラウ3く

そらとぶユパ様の攻撃！

滅亡ニート！

ジブリ世界！

ラピユタ召喚！

ロボット発進！

インドラの矢！

人がゴミのようだ！

H I T！！

H I T ! !

H I T ! !

H I T ! !

H I T ! !

H I T ! !

H I T ! !

フィールド破壊効果！

ディノガラウ 4・5・6・7・8・9 が巻き込まれた！

ディノガラウ 3・4・5・6・7・8・9

即死！

戦闘不能！

バルス！

目が、目がああああゝ！

ラピユタ崩壊！

「へえ、凄いね。けど、あと2分10秒だよ？間に合うのかなゝ？」

……あと、4匹と1人！

確実に倒して、ダメージを食らわない方法で行かないと、天宮を助ける前に俺が負けてしまう！残りHP 23で、確実にコイツらを殲滅する！と、なるとやはりアノ能力しかないか…。

ゝそらとぶユパ様ゝ

能力発動！

ニート&END！

虐殺！

START！！

ルドウン竜の翼強制使用！

速攻あるのみ！残り4匹、最速で全匹仕留めてやる！

くディノガラウ10く

そらとぶユパ様の攻撃！

聖天自堕落巨神剣！

虐殺・惨殺・殺害！

死の三連コンボ！

C R I T I C A L H I T ! !

C R I T I C A L H I T ! !

C R I T I C A L H I T ! !

即死！

戦闘不能！

よし、次だ！

くそらとぶユパ様く

ディノガラウ12の攻撃！

ラリアット！

M I S S ! !

そらとぶユパ様は回避した！

反撃！

超速殺！

生きる者屍となりし！

C R I T I C A L H I T ! !

即死！

戦闘不能！

「……1分40秒。なかなかやるじゃない？あと二匹だよ？まあ、私は絶対に倒せないけどね。」

くそらとぶユパ様く

アイテム使用！
ウゴケール＋α！
移動速度アップ！
攻撃速度アップ！
回避率アップ！
反応速度アップ！
ディノガラウ11の攻撃！
魔壊光線！
MISS！！
そらとぶユパ様は回避した！

………遅い！

反撃！
瞬雷！
雷神の如し！
テンションMAX！！
ボルテージ最高潮！
雷猛斬殺！
CRITICAL HIT！！
雷の追撃！
確定150000DAMAGE！！
即死！
戦闘不能！

「ラストオオオ！！」

くディノガラウ13く
そらとぶユパ様の攻撃！
虐殺の効果が切れた！

ステータスが元に戻った！

……なにっ！？こんな肝心な時に、虐殺の効果が切れた！？

「ハハハハッ、勝負あったな。あと1分で……ん？何をしているんだ！？」

……最後の、手段だ。もう、これに賭けるしか方法がない！

くそらとぶユパ様く

最終奥義発動！

ニート・THE・END！！

ニートに秘められし力！

能力制限解除！

滅亡ニート！

ユパ様World！！

でっかいニート変化！

翼を背負いし巨人！

HP 10000／10000

「ギャルアアアアアアアアアアアアアアアアア！！！」

くそらとぶユパ様く

ディノガラウ13の攻撃！

魔壊光線！

HIT！！

HP 10000／10000

「…………馬鹿な、ODAMAGEだと！？」

と…○

〜ディノガラウ13〜

そらとぶユパ様の攻撃！

踏み付ける！

おもいつきり右足を上げ、最後の一匹を容赦無く踏み付ける。

C R I T I C A L H I T ! !

即死！

戰鬥不能！

「ア……」

じゃ勝ち目はなさそうだから、メインで行こうか。」

Dでは、**職業変更は不可能な筈だ。**

「私の本気を見せてあげよう。」

研究員丹蛭陀

職業CHANGE!!

データ再取得中……………

L	6
V	9
	9
	9
	5
	8
	0
	1
	1
	1
	7

HP	78500041354	／	78500041354
職業	先見の狩人		
武器	巨大砲ジェノサイド		
防具	神秘のオーラ		
能力	先見		
プレイヤーRANK	3位		
戦績	510043勝0敗2引き分け		

馬鹿な……、こんな事が！？プレイヤーRANKが3位だって！？
しかも、能力の先見って、ああとかいうジジイと同じ能力だった
ような…。

「ウォギャアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアア
アアアアアア！！！！」

く 研究員丹蛭陀く
そらとぶユパ様の攻撃！
連続踏み付け！

先見だろうが何だろうが、速くコイツを倒して、天宮を助けないと
！なりふりかまわずやりに行く！

「ちよろいちよろい！やる気ある？」

MISS！！
MISS！！
MISS！！
MISS！！
MISS！！
MISS！！

研究員丹蛭陀は回避した！

くそっ、ちょこまかと器用に避けやがる！ならば、これならどうだ
！？

く 研究員丹蛭陀く

そらとぶユパ様の攻撃！

勝利への翼！

飛翔！

…………死ねえ！！！！

「ジャアガオアアアアアアアアアアアアアアア！！！！」

ニート口内砲！

世界を滅ぼす巨人！

T A R G E T ロックオン！

発射！

M I S S ！！

研究員丹蛭陀は回避した！フィールド半壊！

何だと！？今の攻撃を避けた？どうやって！？くっそ、思った以上に厄介な能力だな。先見…、相手の行動が先にわかる、読める能力か…。一種の未来予知だな。どうやってコイツを倒す？

「…………時間だ。残念だったね♪彼女、精神が逝ったみたいだよ？」

なにっ！？天宮！！！！

丹蛭陀の言葉を聞き、咄嗟に天宮のいる方向に振り返る。天宮は、ぐったりと倒れ込み、ぴくりとも動かない。……嘘だろ？間に合わなかったのか？

「どーこ見てるんですか？よそ見はいけないよ？よそ見は。」

なに！？コイツ、いつの間に空を飛んだんだ？顔のすぐ真横に、巨大なバズーカを構えて笑ってやがる！

「いくら40メートル近い巨人でも、首が吹っ飛べば死ぬかな？」

くそらとぶユパ様く

研究員丹蛭陀

能力発動！

白銀の死翼！

飛翔！

研究員丹蛭陀の攻撃！

最終奥義発動！

大量虐殺・ジェノサイドキャノン！

弾装填完了！

発射！

究極！フルバースト！

一撃目！

HIT！！

二撃目！

HIT！！

三撃目！

HIT！！

四撃目！

HIT！！

追加DAMAGE！！

確定900000000DAMAGE！！

そらとぶユパ様

特殊能力発動！

能力無効化！

確定DAMAGE無効！

HP 10000／6000

「ルオオオオオ！」

「……顔面に直撃したのに、死んでないのか。タフだね。」

（研究員丹蛭陀）

能力發動！

先見の斬撃！

地面からの強襲！

HIT!

$$\frac{10000}{5990}$$

地面から剣が！？ 研究員丹蛭陀：コイツ、かなり強い！プレイヤー

[illegible]

研究員丹蛭陀

そらとぶユパ様の攻撃！

暴れ狂う！

殴る！

MISS!!

蹴る！

MISS!

頭突き！

MISS!

踏み付ける！

MISS!

ボディプレス！

MISS!!

研究員丹蛭陀は回避した!

ことごとく攻撃が回避される!? 先見って、実はかなり強いのか?

「…………弱いなあ。君、本当にあのアダムを倒したのかい? 弱すぎて欠伸が出そうだよ…………ふぁゝ…。あ、本当にでた。」

ふざけやがって! 余裕でいられるのも、今のうちだ! 俺はアダムを倒した男、そらとぶユパ様だぞ? このまま終われるか!!

駄目だ、攻撃しなければ、奴の思う壺だ……。結局、DAMAGEは削られてしまう。くっそおお！！どうすればいいんだ……。

「…………ふっ、チェックメイト。君、詰んだね。」

……………。

「さて、ここで君に相談があります。」

……相談？

「彼女、心配じゃないの？動かないし♪」

……天宮。

「君が、EARTH・FANTASY研究所の、実験台になれば、彼女を助けてあげよう。」

実験台だって！？なんの実験だ？

「グルルルル…………。」

「うはっ、そんな睨むなって♪」

……待てよ？あいつ、今めっちゃ油断してないか？試しに殴ってみるか。えい、バキッ！とな。

（研究員丹蛭陀）

そらとぶユパ様の攻撃！

右ストレート！

HIT!!

HP 0

戦闘不能!

WIN そらとぶユパ様

あっ、勝った。

見事にパンチが命中して、地面にはいつくばる丹蛭陀。コイツ、強いけど阿呆だな。

「くっ、この展開は、先見でも予想出来なかった…。」

成る程。いくら先見でも、必ず回避出来る訳じゃなさそうだ。あくまで、攻撃行動が先にわかるだけなのね。

「まあ、いい…。倒し者の戦闘データを入手できたし、ランキング1位のAMAMIYAは、死んだも同然! ……計画に支障はない。ふっ、さらばだ!」

捨て台詞を残し、ログアウトした丹蛭陀。 ……気のせいかな? とつてもヤバイ予感があるんだけど。とりあえず変化を解除して、急いで天宮に駆け寄る。倒れている天宮を抱き抱え、必死に呼び掛ける。

「おい、結衣! 大丈夫か!? 返事しろ! ……!?!?」

ERROR!!

ERROR!!

ERROR!!

ERROR!!

ERROR!!

現実世界の肉体に、異常が見られます。

ERROR!!
ERROR!!
ERROR!!
ERROR!!
ERROR!!
ERROR!!
ERROR!!
ERROR!!
ERROR!!
ERROR!!
ログアウトする事を、強くオススメします。

……なんだこれ？天宮のヘッドスコープに、大量のERROR!!の文字が！こんな現象、初めて見たぞ！？これは、相当ヤバイ状態だな。

♪EARTH・FANTASY第6研究室♪

「ふう〜、流石倒し者！この私が負けるなんて…。」

水を軽く口に含み、ゆっくりと身体をリラックスさせる。

「あっはははははははははは！！！！何コレ？ハンパないわ〜。あははははは！」

……ドクター谷川が、奇声を発しながら喜んでいる。何をしている

んだ？

「ドクター？」

「ああ、丹蛭陀。ちょっと見てくれる？大和ちゃんの戦闘データな
んだけど。」

…倒し者のデータか。パソコンに映し出されたデータを見て、私は
ア然としてしまった。何故なら…

「アダムの戦闘力を、遙かに超えていますね。約20倍！？信じられ
ない……。」

「でしょ？これだけのエネルギーがあれば、アレを開放出来るかし
ら？」

「……倒し者と、さらに強力なエネルギーが複数体必要かと。まあ、
ランキング上位者をかき集めれば、アレの開放は何とかなるでし
う。」

「……あっ！いいこと思いついた。この大和ちゃんの戦闘データ
を、他のプレイヤーにインストールすれば、そらとぶユパ様二号が
できるとおもわない？」

「……クックック、流石ドクター。洒落になりませんね。あんなの
が二人に？世界が破滅しますよ。」

「いいじゃない！面白そうだし。早速取り掛かりましょう♪」

……やれやれ、狂科学者の助手はツライな。発想がありえないで

しょ？そらとぶユパ様二号とか……。……。けど、面白そうなのは確かだな。♪

く松森直秀の家く

「あー……。大和は彼女ができて付き合い悪いし、暇だぜく。」

ピリリリリリリリリ！

あん？メール？部活仲間のアドレスだ。なんだろう？

22時14分・新着メール

おい、直秀！

ヤバイゲームが、近所のネットカフェにあるんだって！

なんか、ゲームの世界に行き来できる、ハイテクゲームらしい……。

明日行ってみないか？

……。明日、か。ちょうど予定ないから、行ってみるかな。

返信

了解！

明日は暇だから、行ってみようか。どうせ練習ないから、学校から直で行こうぜ。

……よし、返信つと。どんなゲームなんだろう？まあ、行けばわかるか。

この時、松森直秀は地獄への扉を開いてしまった。EARTH・P
ERIODのプレイが、人生を大きく変える事になる…。

STAGE 1 END

第一部が終わりました。

え？一部終わるの早くない？…と、感じる方もいるかもしれませんがね。実際、一部は序章みたいな物なんです。これから書き上げる、STAGE 2以降が本番？なんです。

さて、この場を借りて、少し関係のない話をしたいと思います。なにしろ、文字数が200以上ないので、投稿できない訳なのです。

（笑）

今作、ネットカフェ2では、前作ネットカフェで出来なかった&書けなかった事をやりたいと思い、執筆した訳です。…さっきから、く訳です。が多いなあ。作者は文才がないので許してねん♪

前作では、ヒロイン・天宮の過去が明らかになりましたが、主人公・谷川大和の素性が不明でした。谷川大和の過去が書きたかったから、2を執筆した。…と、言っても過言ではありません。だから、冒頭でいきなり過去が明らかになるんです。

前作、ネットカフェ1では、ニート強すぎ！…と、言う感想・意見が多数寄せられました。あつ、コメント送ってくれた方、感謝です。なので、今作はニートを苦しめてみよう！と、いう試みが試された訳なのです。13対1の勝負や、先見など。ぶっちゃけ、主人公がぶっちゃぎりで強いと、おもしろくないでしょ？なので、今回はニートをどん底まで苦しめます。どうぞご期待下さい。（笑）

さて、200文字を超えましたが、もう少しお付き合い下さい。

私の執筆している小説は、三つのテーマを目指して書いています。

1、書いていて楽しい

2、ジブリを目指して

3、普通ではないヒロイン

です。1は説明不要ですね。書いていて楽しい小説は、読んでいても、楽しくなるものなんです。これを心情にして書いてます。

2も説明不要ですね。省きます。

問題の3。これ、どういう意味？と、思った方がいるはずです。言葉の通りです。普通なんて、おもしろくない。ちょっとヤバイくらいの、刺激のある人間がいた場合が、物語がおもしろくなるんです。それが、私の作品の場合、ヒロインに当て嵌まる訳ですね。最強の天宮・別の作品、廃人のヒロイン、怪物清水美砂。など、どれも普通ではありません。そういう訳なんです。今、流行りのツンデレなんかも、これと同じではないのでしょうか？……え？違う？

長くなりましたが、現在連載中のネットカフェ・in・サバイバル2を、今後とも応援よろしくお願いします。

PR!!

ゲーム廃人・THE・レジェンドもよろしく！

また、未完の処女作品、人間の咎も、ぼちぼち更新していきます。やっと思いが、最後まで練り終ったんです！こちらの作品は、一言で表すと、「異常」な過激作品となります。ネットカフェとは、ひと味違った面白さ？かもしれない。なにしろ、主人公が終わります。彼の性格を振曲げるのに、約半年かかりました。

では、次話から二部！

原因不明の脳死。それが、天宮に起きた症状……。今の天宮は、動かないし喋らない。それに、何も食べない。腕に痛々しく刺さっている点滴だけで、命を繋いでいる状態だ。はつきり言ってしまえば、植物人間。

……………天宮、君を守れなかった。ごめん、敵は必ず撃つよ。……たとえば、命にかえても！！！！

STAGE 2 START!!

↓学校・3－2教室↓

「今日の欠席は…、天宮と谷川だな。では、授業を始める。」

……あいつら、また休みなのか？大和がいないと、学校生活がつまらないな……。部活も引退したし、マジやることねえ。刺激がないっつーか、退屈？就職の内定も決まったし、ホントに毎日がくだらねー。

「コラ！松森。おま……」

「聞いてませーん。」

「やる気あるの……」

「ありませーん。」

くだらねえ。こんな退屈な毎日で、やる気が出る人間は、頭がおかしいに決まってる。あゝあ、めんどくせえ。サボるか？

「先生大変です！子供が産まれるから早退します。」

「なになっ、馬鹿言ってんな松森！」

席を立ち上がり、かばんを手にして、帰り支度を始める。すると、俺と同じように、席を立って帰り支度を始める人間が一人いた。

「実は、俺の母ちゃんの浮気相手が、直秀なんです。つまり、直秀の子供と、俺の弟が、いっぺんに出来る訳ですよ。」

「お前ら、ふざけるな！」

はらたとしお
原田敏夫。バスケ部の仲間で、大和の次に仲がいい。昨日、メールを寄越したのも、コイツ。

「「では、そういう事で。」」

「まっ、待て！どういう事だ！？おい、待たんか！」

教師の制止を振り切り、二人揃って教室を後にする。

「ちょっといいか敏夫？」

「なんだよ？」

「便乗してきたのいいが、いつ俺がお前の母ちゃんとやったんだ

よ！」

「軽いアメリカンジョークじゃないか。そう怒るなって♪」

「やだ。怒る！」

「ほう…、私と戦うつもりかね？」

「大和じゃあるまいし、ムスカのモノマネはやめろ。しかも、似てないし……………」

「……谷川か。アイツ、学校休み始めてもう二週間だぜ？何してる訳？」

「さあ？家にもいないみたいだし、天宮の家に同居でもしてるんじゃないか？」

「その天宮だけどさ、噂じゃ入院してるらしいぜ。」

「は？なんで？」

「俺が知るかよ。」

……入院、か。あいつら、何か事件・事故に巻き込まれたのか？大和の携帯も繋がらないし、一体どこで何をしてるんだ？

「……で、昨日のメールだけど、なんていうゲームなんだ？」

「あ？確か、EARTH・PERIODとかなんとか。」

EARTH・PERIOD？確か、結構前に総理が会見でアダムとEARTH・PERIODについて話してたような…。結局、アダムとかいう奴は倒されたらしいけど、一体誰が倒したんだろ？なにしろ、富士山をひっくり返すような化け物だからなく。そいつを倒したとなると、アダム以上の化け物ってことか。……………本当に人間か？

「そのゲームをプレイする場所が、近所のネットカフェにあるのか？」

「ああ、ネットカフェ・爆遊会館に、そのゲーム専用の施設があるらしい。」

スゲーな、施設？たかがゲームに、施設！？なんだよそれ？まあ、行けばわかるか。

「ふーん…。じゃ、早速行ってみるか！」

（松森直秀）

HP 100／100

学校をサボった！

テンションアップ！

煌めくような輝きを放つ、柔らかい肌に胸。裏表のない、癒される笑顔に、天使のような甘い声。……………天宮。

「オヌシ、人の話を聞いてるか？今、完全に上の空じゃったぞ？」

「……………ん？ああ、何だっけ？」

（開拓区域・第990ナバール森林深部）

俺は今、情報屋・あああの店を訪ねて、第990ナバール森林にいる。

「もう一度言うぞ？現状では、チャンピオンの状態はかなり危険だ。」

「……………まあ、見ればわかる。」

「問題は、かなり強烈な能力で、やられた事じゃの。戦闘が終わっても、治らないということは、もはやその相手を倒すしかあるまい。その方法でしか、チャンピオンは救えんだろうな。」

……丹蛭陀を、殺すか。かなり、苦労はするだろうな。ランクも3位だし。ん？何故、あああの所にいるかって？以前、天宮がどうしても困った事があったら、ここにくれば何とかなるかも……。と、言ってたのを思い出した訳ですよ。

「俺には信じられねーなあ。チャンピオンが負けたなんて、想像が

でん…。」

狙撃ライフルの手入れをしながら、脇に座っていた、ガルデ・ゾーラが、口を挟む。さっき知ったんだけど、あああって、ガルデ・ゾーラの師匠だったのね。つか、ガルデ・ゾーラは、雰囲気がアウトローのような恐い印象だ。ちなみに、ドイツ人。

「相手はどんな奴じゃった？」

「ランク3位の、研究員丹蛭陀。職業をチェンジしながら戦うんだ。」

すると、あああのじいさんが眉に皺を寄せる。なんだ？どうしたじいさん？

「……丹蛭陀か。いろいろと黒い噂を聞くのう。あやつは、運営・管理側の人間じゃろ？」

「ああ。あいつ、自分で言ってたな。」

「……知っておるか？今、運営側の裏では、抗争が起きておる。」

……は？なんだそれ？意味わからん。

「意味わからんか？まあ、聞け。」

はい、わかりました。

「アダムがいなくなった今、アダムの楽園は誰もいない、支配者がいない状態じゃ。その楽園を、新たに開拓し、新たな王になろうと

企む派閥と、EARTH・PERIODの転送装置を奪い、全てを手中に収めようとする派閥。そして、醜い人間を全て消し去り、この世界の全てを虚無に帰そうと企む派閥。この3つの派閥が争い合っているのじゃ。」

……………???

話についていけないんですけど。

「そして、その全ての企みを実現できるEARTH・PERIODの核ともいえるエネルギーが、裏EARTH・PERIODに厳重に封印されているのじゃ。」

「裏？たしか、アダムを倒した時に、特典の一つが、裏への挑戦権だったような…。」

「それじゃ！あの時、オヌシの選択は、全員蘇生だったが、本当は裏を選び、オヌシが新たな世界の統括者になればよかったのじゃ。」

「待て、そのエネルギーは、何の為に封印されたんだ？」

「本来、EARTH・PERIODは、別世界に存在するアダムを倒す為に作られた物。当然、規模が大きいだけに、それ相応の力、エネルギーが必要じゃ。だが、アダムを倒した今、そのエネルギーは強力過ぎる…。それを自分の都合のいいように利用しようと、運営側は考えているのじゃろうな。もちろん、その考えを見越して、EARTH・PERIOD最高責任者が大規模アップデートとともに、エネルギーを裏へと封印したのだが、先日何者かによって責任者が現実世界で暗殺された。」

……………おいおい、台詞なげーよじいさん。しかも、説明っぽくて、

頭に内容が入ってこない。

「裏の開放は、アダムに匹敵する程の力でないと、扉は開かないようになっている。だから、オヌシの所に丹蛭陀が現れたのじやろう…。」

裏・封印・エネルギー、かぁ。ようは、その巨大な力を入れた奴が、新たな世界を牛耳る訳だ…。

「現実世界への影響は？」

「わからん。エネルギーを手にした人間次第じやろうな。」

なんか、第二部になった途端、話が急展開過ぎやしねーか？ヤバヤバな気配がムンムンだねこりゃ…。

「オヌシは、つねに狙われていると言っても、過言ではないぞ？現実世界でも、EARTH・PERIOD内でも、細心の注意を払え！」

「あ？なんで？」

「馬鹿かオメー！裏へ行く為には、アダムを倒したお前じゃないと、裏への扉を開ける事はほぼ不可能。だから、運営側に狙われているぞって言ってんだよ。」

マジ？超おっかないんですけど。面倒事に巻き込まれるのはごめんだね。俺は、ただたんに丹蛭陀を完全に倒し、天宮を救えばなんでもいいんだ…。つーか、ガルデ・ゾーラって、意外とハスキーな声でしゃべるのね。

「……………世界の統括者、ねえ…。」

ある意味、アダムは重要な存在だったんだなあ。アダムがいれば、こんな事にはならなかったんだし、ぶっちゃけ、倒す前よりヤバイ状況じゃね？あゝあ、人間ってヤツは……。

（現実世界、ネットカフェ・爆遊会館）

「いらっしやいませ。二名様ですか？当店の会員カードはお持ちですか？」

「あつ、いや、持ってないです。」

噂のネットカフェに来たけど、別に普通のカフェじゃないか？どこにその施設があるんだろうか？

「あの、EARTH・PERIODとかいうゲームをしたいんですけど。」

すると、受付の店員が、またかよ…。みたいな表情を浮かべ、俺と原田を交互に見回す。

「わかりました。……が、EARTH・PERIODをゲームと呼んでる時点で、お客様は勘違いしています。そんな心構えですと、開幕5秒で死にますよ?」

は? 5秒? 死ぬ? 意味わかんね…。ナメてんのかこの店員?

「死ぬって、ゲームの事?」

原田がマヌケな顔で、店員に質問している。

「いえいえ、現実世界で。」

……気のせいかな? ヤバイ気配を感じるのは、俺だけなんだろうか!?

「……………なあ、敏夫。ヤバ」

「おもしろそー!! なにそれ? どういう事? やるから早く案内してくれよ!」

……はあ。まっ、いいか。どうせ一日中ひまだしな。

〈開拓区域・第990ナバル森林〉

「EARTH・PERIOD内で、死んだらどうなるか？」

「ああ、丹蛭陀の野郎が、意味深な感じで呟いていたんだ。あと、俺を襲ったモンスターが、もともと人間だったとか…。」

すると、またまた眉間に皺を寄せるあああ。そんなにいっぱい皺があるのに、これ以上皺を増やしてどうするつもりなんだろう？文字通り、顔面皺くちなあああ。

「成る程。……ヤツめ、廃棄データを再利用して、新たにモンスターを作り上げたな…。」

「再利用？リサイクルか！？」

「EARTH・PERIOD内で死んだプレイヤーデータは、運営側によって破棄されるのじゃ。その破棄されたデータと、モンスターデータを融合させて、新たなモンスターを作ら上げたのだろうな。もともと人間だったと言う意味は、そういう事じゃろう。」

……ふーん、もはや何でもありだな。

「丹蛭陀は、運営側の人間なんだろう？奴は、どの派閥に属しているわけ？」

「全てを無。ようは、世界をデリート派じゃな。」

「あとは…、先見の能力について知りたい。あんたの能力も先見だろ？教えてくれよ。」

「……………弱点か。二つあるぞい。」

「おお！二つも！？教えてくれじいさん。」

「まず一つ。フィールド全範囲に及ぶ、超火力で逃げ場を無くす。いくら先に攻撃がわかって、これなら避けられん。」

あつ、だからアダム戦の時、殺戮ビームをあああは避けられなかったのか。成る程ね、納得。

「二つめ。相手の予知より早く行動する。ようは、限界を超えたスピードで動けば、楽勝じゃ。」

……………無理じゃね？

「戦闘結果の処理速度が追いつかないくらい速く動けば、まあ問題ないだろう。しかし、これが出来るのは、現在チャンピオン一人だけ。しかも、今は入院中で、ログインできない…。実質、これが出来る人間は今現在ではない事に…。」

……………超火力で、消し去る方向でがんばろう。うん、それなら何とかなりそう♪

〔EARTH・PERIOD、WORLD RANKING〕

ランク1位

AMAMIYA

ランク2位

—???—

ランク3位

研究員丹蛭陀

ランク4位

RICHMENS

ランク5位

—???—

ランク6位

ε&ε

ランク7位

男爵ジャガ芋

ランク8位

Limit

ランク9位

マグニチュード999

ランク10位

—???—

「……………何これ？」

あああから受け取った紙には、EARTH・PERIODのランキング上位者が記載されていた。

「見ればわかるじゃろ？ EARTH・PERIOD内最強の10傑じゃ。」

「この???は？」

「ランク統一戦以外、全く姿を見せない謎だらけのプレイヤーじゃ。このワシでも、情報が掴めん。」

「ふーん…、これを俺に見せた意味は？」

「運営側も必死になって、強者を集めている。すでに、ランキング上位者の数名が、運営側に付いていても不思議ではない。それと、近々ランク統一戦が行われるからの。」

「ランク統一戦？」

「知らんのか？ EARTH・PERIODの最大イベントの一つ、ランク統一戦。ランダムにプレイヤーが集められ、対戦相手に勝ったら、相手のランクより上のランクになれるのじゃ。期間中は、地下闘技区域のみログイン可能。つまり、嫌でも闘う羽目になる。運営側は、これを利用してオヌシを狙ってくるかもしれん…。」

ランク統一戦かぁ…。上手く行けば、運営側の尻尾を掴むチャンスでもあるな。

「ところで、オヌシ日常生活は大丈夫かう？」

「は？」

「もう現実世界では、二週間以上経っているぞ？ ワシは暇な老人だ

し、ガルデ・ゾーラはガルデ財団の御曹子だから遊び歩いても問題ないが…。」

ナヌー！？二週間？ヤッベ…、学校サボりまくりじゃん！つか、御曹子！？そっちの方がびっくりなんだが…。まあ、サボったもんはしょうがない。

「問題ナッシング！」

「ネットカフェ・爆遊会館」
案内された地下には、薄暗い部屋に、まるで拷問器具のような装置が、パソコンに取り付けられている。なんか不気味だ…。

「ウヒョー！マジ興奮してきた！」

……お気楽な思考回路の原田。少なくとも、これを見て興奮する奴は頭がおかしいに違いない。店員のいう通り、パソコンを起動させ、EARTH・PERIODのアイコンをクリックする。

EARTH・PERIOD

MENU

GAMESTART

OPTION

END

……GAMESTARTを選ぶ方がいいのか？

EARTH・PERIOD

GAMESTART

新規キャラ作成／転送

OPTION

END

……ん？名前か。まあ、お決まりといえば、お決まりだな。

CHARACTERNAME

鬼殺し直秀

……本名を入れるって、結構抵抗があるな。別な名前にしよう。

きのこ派とたけのこ派

……うん、チョコ菓子のアレ。みんなはどっち派かな？

ミナミの貧王

金の金○術師

ナウシカ
Now鹿

AKB4800

カレーライス8連休

……決まらねえ。

あ！閃いた。コレにしよう。

CHARACTER NAME

地を這うナウシカ

次は、職業か……。ンなもん、ぱっと見のインパクトで決める！

地を這うナウシカ

職業 風呂屋の番台さん

あ？武器選択？どれ：

武器選択

・番台タオル

・のぞき見レンズ

・フルーツ牛乳ソード

・熱湯バズーカ

……まともな名前の武器が、一つもねえ。

地を這うナウシカ

職業 風呂屋の番台さん

武器 フルーツ牛乳ソード

防具まで貰えるのか！？太っ腹なゲームだな。

防具選択

・全裸

・裸・タオル

・絶妙・タオル

・貸し出しタオル

・タオル

.....タオルしかねえ。

地を這うナウシカ

職業 風呂屋の番台さん

武器 フルーツ牛乳ソード

防具 絶妙・タオル

HPと能力は、ランダムで決められるらしい…。

地を這うナウシカ

LV 1

HP 2／2

職業 風呂屋の番台さん

武器 フルーツ牛乳ソード

防具 絶妙・タオル

能力 地獄のサウナ責め

プレイヤー RANK RANK外

戦績 0勝0敗0引き分け

これで、転送を押せばいいのか？どれ、ポチッとな。

「うおおおおお!？」

転送ボタンを押した途端、俺の意識は吹っ飛んだ。気が付くと、まるでゲームのRPGのような町並みが、視界いっぱい広がっている。なんだ? 何処だよここ!? 確か、ネットカフェにいたはずだろ?

「……………ようこそ、地獄の一丁目へ。」

……は? 誰コイツ?

赤い髪の毛に、整った顔立ち。透き通るような裸に、ちよっぴり高い鼻。真っ黒なスーツを身に纏い、まるでホストのような風貌だ。あ…、わかった! コイツが、チュートリアルを教えてくれる、案内役だな。

「……………ん? 貴方の名前、おもしろいですね。実にイイ! 倒し者が、意識しそうな名前だ。」

何言ってるのコイツ? プレイヤーネームが、研究員丹蛭陀? ダッセー名前だなあ。

「……………了解! ふふっ、ドクターからの指示が出た♪ 今から、貴方がある場所に連行します。さあ、逝こうか!」

いきなり、俺の腕を掴んでくる研究員丹蛭陀。すると、ぬめりとした感触が、嫌らしく伝わってくる。原因を探るべく、視線を丹蛭陀の腕に向けると、それは、大量の血液だった。よく見てみると、丹蛭陀の身体は、全身血まみれ。黒いスーツを着ているものだから、

ぱつと見ではわからなかった！

「ああ！？おい、あんた……………」

そこまで言いかけて、気が付いた。俺と丹蛭陀の周囲には、数え切れない程の死体が、そこらじゅうに転がっていた。……………なんだよ？何が起きてるんだ！？

「ん？あつ、コレですか？なーに、少し暴れただけです。ストレス解消と実験のためにね♪」

〈初心者区域・全プレイヤー確認〉

・ 研究員丹蛭陀

・ 地を這うナウシカ

全2名。他、1463名死亡。

その状況は、もはや惨劇としか、言いようがなかった。コイツは、逆らえばお前もこうなる運命だ。と、言わんばかりに俺を睨みつけてくる。なんだこれ？一体、何がどうなってるんだ！？俺は、丹蛭陀の指示に従うしかなかった…。

〈 開拓区域・第990ナバル森林〉

「じゃあなじいさん！また何かあったら頼むわ。」

一通り用事は足したので、とりあえず、あああの店から出る事にした。さーて、そろそろログアウトしようかな？

なんて、思っていた矢先に、ソイツは突然現れた。音もなく、いきなり俺の目の前に姿を現したプレイヤー。右腕には、透き通るような刀を持ち、左腕には小銃を持っている。Tシャツにジーンズを着こなし、この世界ではかなりの軽装といえる。

「…………貴方が、アダムを倒した勇者？」

…………男？女？見分けがつかない程に、美しい人間だ。声も中途半端に高いし、マジでどっちだろう？

「そうだけど、お前は誰だ？どこから現れた!？」

「私？私は…、高燃費少女・ハジイ！よろしく、倒し者…。」

高燃費？低燃費じゃなくて？しかも、ハイジじゃなくてハジイなのか？うむ、どうやら日本人のようだ。年齢も俺とそんなにかわらないような…？十七・八ってところか？

「なんか用？俺、そろそろログアウトするつもりだったから、用事があるなら手短に話して……………」

「倒して欲しいプレイヤーがいるんです！」

いきなり、土下座して叫ぶ高燃費少女。はあ？倒して欲しい？しょーがねえなあ……………」

「やだ。」

「おっ、お願いします！そこをどうにか…。」

「無理。」

「なっ、なんでですか？ちよつとくらい…。」

「駄目。」

「か弱い女の子のお願いデスヨ？」

「不可能。」

すると、泣きながらお願いしますと、俺に擦り寄りながら懇願する高燃費。

「あのな、よく聞け？お前みたいな奴の言う事聞いてたら、キリがねーんだよ。それに、俺にはそんな義理もねーし、冷たいようだけど、諦めな。もしくは、他の奴に頼め。別に、俺じゃなくてもいいだろ？」

「……………そう、わかったわ。タダでとは言わないわ。」

「いや、タダでとかそういう問題じゃ…。」

「ふん！貴方、私の身体目当てなんでしょ？嫌らしい…。」

……………ヤバイ、コイツ、かわいい顔して思考回路がイカレてやがる。とんでもないのに絡まれたなあ…。

「あのな、俺には彼女だっているし…。」

「酷い！私の心をモテ遊んだのね！？崇ってやる……………末代まで崇って呪い殺してやる！」

……………だれか助けて。この状況を何とかしてくれ。

(……………崇るって、まともな人間の言う事じゃねーぞ？ヤバイ、コイツは頭がおかしい人間だな……。さっさとログアウトしよう。)

「……………急いでるから、これで失礼！」

直ぐさまログアウトのボタンを押して、逃げるようにログアウトする。

「コラアアアア！！逃げるな○×△□！」

絶叫しながら、俺を引き止めようとする高燃費。最後の言葉は、あまりに興奮していたのか、舌が上手く回らず言葉として聞き取るのは不可能だった。あー…、怖かった。なんだったのあいつ？

「……………無視された。逃げられた。嫌われた。許さない。怨んでやる。呪ってやる。崇ってやる。殺してやる。ぶつぶつ……………」

（翌日）

……………おかしい。いつもなら、直秀が家に迎えに来るのに、今日は来ないぞ？二週間も留守にしたからか？まあ、学校に行けば会えるだろ…。

なんて思いながら、かばんに荷物を積んでいた時だった。

ピンポーン！

インターホン？直秀だな。今日はちよつと遅くなったただけか…。

「今いくぞー。ちよつと待っててくれ。」

ガチャガチャガチャガチャガチャガチャ……ガツン！！

なんじゃない！？直秀のやつ、ドアノブをめちゃくちゃに回してやがるな？朝からテンション高いな……。……。ん？ガツン？あいつ、一体何をしてるんだ？

「今行くから、ちよつと待ってろつて。ドアノブ壊れるだろ！」

ガチャガチャガチャガチャガチャガチャドンドンドンドンド
ンドンドンドンドンドンドンドンドンドンドンドンドンド
ン！！

：ちよつと待て、直秀のやつ、ドアを叩きまくってないか？近所迷惑だ！やめさせよう。

「おい！いい加減に……」

ドンドンドンドンドンドンドンドンドンドンド
ドンドンドンドンドンドンドンドンドンドンド
ドンドンドンドンドンドンドンドンドンドンド
ドンドンドンドンドンドンドンドンドンドンド
ドンドンドンドンドンドンドンドンドンドンド

……あの、さ。キレていいかな？

「デメエ、一体どういうつもりだ直秀！！」

勢いよく玄関を開けると、そこには……………。

「あれ？誰もいない？？」

…気味悪いな。朝からなんなんだ？……………幽霊じゃないよな？まだ朝の7時20分だぜ？幽霊が出現する時間帯じゃねーよな？いや、そもそも、幽霊が出現する時間なんてあるのか？まあ、なんでもいいや。学校行こう。

玄関のドアを閉めようとしたその時！ドアの閉まる寸前に、何者かの足が、突如隙間に挟み込まれ、ドアが閉められない。よく、セー
ルスマンがやるアレだね。

「……………は？」

なんだこの足？邪魔くさいな…。踏んじゃえ！えい、ムギユツとな。

「いったーい！」

あ？直秀じゃないぞ？つーか、この声どこかで聞いた事があるような…？まあ、どうでもいいや。踏んだら、足を引っ込めてくれたようだし、今の内にドアを閉めよう。

「ちよっとおおおおおお、痛いじゃない！！」

ドアの向こうで、何者かが絶叫している。タチの悪いイタズラしやがって…。ムスカと同じ運命を辿らせてやる！

「開けろおおおお!!」

ドンドンドンドンドンドンドンドンドンドンドンドンドンドンド
ドンドンドンドンドンドンドンドンドンドンドンドンドンドンド
ドンドンドンドンドンドンドンドンドンドンドンドンドンドンド
ドン!!

あー…、実にやかましい。非常用のウェルダーを玄関に設置して、
巨大な投光機を外に向かってセットする。ついでに、溶接も準備し
て、迎撃体制は整った。変質者め、思い知れ!

「開けやがれええー!!!!」

ドンドンドンドンドンドンドンドンドンドンドンドンドンドンド
ドンドンドンドンドンドンドンドンドンドンドンドンドンドンド!!

よし、ウェルダー始動!

ブイーン!

「今開けますよ。」

カチャリ…。

玄関の鍵を開けた途端、変質者が、勢いよく我が家に侵入してくる。
瞬間、アーク溶接の光と、投光機の強烈な光が、変質者に襲い掛か
る。

「ぎゃあああああ!?!目が、目があああああ。」

ふははは、谷川大和特製、人工バルスだ！変質者が怯んだ隙に、みぞおちにおもいっき蹴りを入れる。さて、ふん縛って、警察に突き出そう。

「ううう…、酷いわ…。」

ん？女の子！？しかも、けっこうかわいいな。つか、この制服は、超有名なお嬢様学校の、聖光女学館の制服じゃないか！

「ううう…、崇ってやる…。」

……………あっ！思い出した。

「……………お前、高燃費少女・ハジイだろ？」

「呪ってやる…。殺してやる…。」

なんだかイラッ！としたので、もう一回蹴ってやろうかな？

「質問に答えろ。お前、高燃費少女・ハジイだろ？なんで俺の住所を知っている？」

「……………そんなの簡単。今、EARTH・PERIODで一番の有名な人、アダムを倒し勇者で聞きまわれれば、住所・氏名くらい簡単に入手できる。」

…俺の個人情報だだ漏れじゃんか。

「あのさ、なんでこんな事する訳？俺に怨みでもあるの？」

「……………今まで、私の思い通りにならなかった事なんてなかった。なのに、あなたときたら！私の頼み事を拒否するし、恨めしい限りだわ！」

……………コイツ、超わがままお嬢様じゃねーか。多分、今まで親の権力と財力で、やりたい放題やってきたんだろうな。」

「嫌だ。お前の言う事なんて、聞きたくないね。だいたい、俺以外のプレイヤーでもいいじゃんか。どうして俺なんだ？」

「あなたは、アダムを倒した勇者。倒せないプレイヤーなんて、無きに等しいでしょ？だから……………」

「そいつは誤解だ。俺でも、倒せないプレイヤーはいる。」

「ええええ！？そんな、困るわよ！あなたじゃないと、あの女は倒せないわ！」

……………俺、いろんな意味でモテ始めたぞ？うれしくね。つか、高燃費の相手をしてたら、学校遅刻しちゃった♪しよがねえ、明日から行けばいいか。

「つーかよ、あの女って、誰？」

「あなたに倒して欲しいプレイヤーよ。RANK5。」

ん？RANK5って、ああでも情報が掴めないプレイヤーじゃなかったか？

「あいつは、EARTH・PERIODの運営に父親がいて、EARTH・PERIOD内でも、学校でも偉そうにしているのよ？キィ！思い出ただけでムカつく！！ファッキン！！」

……運営側の人間と繋がりがある、か……。今は情報が欲しいし、会っただけ会ってみるか。

「しょーがねえ、わかったよ。倒せるかどうかわかんないけど、とりあえずRANK5と会わせろ。」

「ええ！？本当に！！谷川ユパ様だぁーい好き♪」

うわわ！？高燃費が抱き着いてきやがった。顔だけ見ればかわいいんだが、性格がな。第一、俺には天宮という彼女がいるし…。

「抱き着くな！」

……谷川ユパ様？変な呼び名がついたな。

2時間後、LV無制限区域

「はじめまして♪RANK5の奈々です。」

「……………は？え？あっと、はじめまして。」

高燃費にRANK5を呼び出してもらった方がいいが、マジびっくりだよ！今流行りのアイドル、タマネギみじん切りの早河ちゃんがRANK5！？

「猫かぶんなブス！死ね死ねバーカ！」

高燃費が、奈々ちゃんに容赦ない罵声を浴びせている…。奈々ちゃんは、セミロングで緑色の髪の毛だ。多分、アレはEARTH・P ERIODのイメチェン設定で髪の色を変えているんだろう…。大きくなりくりとした瞳に、プルツと弾けんばかりに綺麗な唇。さらに、服装は白と水色のドレスみたいな防具を装備している。タマネギみじん切りの、早河奈々ちゃんがRANK5…。意外だ。

「何よ！あんたなんか弱いくせに、調子に乗らないでよ！」

「うっせえ！ウンコ奈々！バーカバーカ呪われろ！」

「頭に来た！あんたなんかやつつけてやるわ！」

高燃費少女・ハジイ

VS

奈々

……どうやら、高燃費と奈々ちゃんは、犬猿の仲みたいだ。二人とも、めっちゃキレてるし。

く高燃費少女・ハジイく

LV 1584

HP 2410 / 2410

職業 レンジャー

武器 機動銃剣

防具 ビヴェルの制服

能力 奮起奮闘

プレイヤーRANK RANK外

戦績 17勝39敗0引き分け

く奈々く

LV 44408723695

HP 5172699902 / 5172699902

職業 歌姫

武器 特製鋼鉄槍マイク

防具 誘惑ドレス

能力 死のコンサート

プレイヤーRANK RANK5位

戦績 6508勝4敗0引き分け

圧倒的じゃんか！高燃費じゃ、勝つのは無理だろ…。

「しねえ！ウンコ奈々め！」

「下品な奴！あんたこそ死になさいよ！」

く高燃費少女・ハジイく

奈々の攻撃！

能力発動！

愛と恋の境界線Ver. 7

テンションMAX！！

最終奥義即使用可能！

なに！？開幕でいきなり最終奥義使用可能！？なんだそれ…。しかも、攻撃方法が歌って、いかにもアイドルらしい攻撃だ。

奈々の最終奥義！

勝利と愛に捧げる情熱！

VolumeMAX！！

大音声！！

華麗なる死の舞闘！

特殊攻撃！

超超超音波動！

確定8000000DAMAGE！！

HIT！！

コンサートは終わらない！

行動制限！

移動不可効果！

聴覚破壊！

HIT！！

アンコール！

確定8000000DAMAGE！！

：おいおい、いつまで攻撃が続くんのだ？

拍手喝采！

ラストコール！

みーんな大好き！

終幕！

確定4000000000000DAMAGE！！

蘇生効果無効！！

HIT！！

HP 0

WIN 奈々

……高燃費が秒殺された。強い！流石、RANK5。確定DAMAGEで、キツチリ確実にDAMAGEを与えてくる戦法か。

「……ぐぐぐ、ユパ様出番よ！奈々を倒しなさい！」

地面にはいつくばりながら、高燃費が命令してくる。つーか、マジでアイドルのタマネギみじん切り・早河奈々と俺は戦う訳？

「ユパ？ひょっとして、アダムを倒し勇者・そらとぶユパ様！？」

「そうですけど。」

「へー！じゃあ、EARTH・PERIODの裏情報とか探っているわけ？それが目当てで、私のところに来たのね。」

ゲゲゲッ！バレバレやん……。なら、いつその事開き直るか。

「ああ、それが知りたくて、君に会いに来たんだ。俺が勝ったら、君の知っている情報全て喋ってもらう。」

「いいわよ。ただし、君が負けたら、パパの勢力に付いてもらう。それでいいわね。」

……運営側に付いて、裏の開放を手伝えって事か。

「…構わないよ。」

さて、RANK5か。丹蛭陀並の強さと考えていいだろう…。

く奈々く

VS

くそらとぶユパ様く

23

くそらとぶユパ様く

奈々の攻撃！

能力発動！

愛と恋の境界線Ver. 7

最終奥義即使用可能！

いきなり来たな……。だけど、ここはアイテムを使えば乗り切れる！

くそらとぶユパ様く

アイテム使用！

倍速ドリנק！

回避率80%アップ！

敏捷50%アップ！

奈々の最終奥義！

勝利と愛に捧げる情熱！

MISS！！

そらとぶユパ様は回避した。

よし、いいぞ。出だしは好調だ。

く奈々く

そらとぶユパ様の攻撃！

ルドウン竜の翼！

聖天自堕落巨神剣！

ルドウン竜の翼を使用して、一気に相手との距離を詰める。そのま

ま、自堕落剣で切り付けにかかる。

切り下げ！

M I S S ! !

奈々は回避した。

なっ、なんだ！？奈々の攻撃の避け方が、まるで氷の上を滑るように、体がスライドして攻撃を避けたぞ。

「…………ふーん、アダムを倒した勇者ねえ。今の攻撃を見る限り、大して強くなさそうね。」

余裕な表情を浮かべ、冷めたような目つきで俺を睨みつける奈々。じゃあ、見せてやろう。ニートの能力を！

（奈々）

そらとぶユパ様の攻撃！

滅亡ニート！

ジブリ世界！

…ちよつと待てよ？そういえば丹蛭陀が、ニートは使い手の創造力・世界感が具現化される能力だって言っていたな。じゃあ、俺の創造力次第では、ジブリ世界以外の異なる○○世界も展開できるのか？

赤き瞳の怒り！

王蟲大進撃！

M I S S ! !

M I S S ! !

M I S S ! !

M I S S ! !

MISS!!

MISS!!

MISS!!

以下略MISS×1240

「強い弱いは別として、おもしろい攻撃方法ね。こんな能力初めて見たよ。」

ぐっ、なんだ？さっきから嫌な雰囲気纏わり付く…。具体的にはわからないが、アダムや丹蛭陀のそれと同じような感じだ…。つか、数千のオウムの突進を、一度もHITする事なく、全て回避するのか…。流石RANK5だな、一筋縄じゃ倒せない。

く奈々く

状態変化!

GREEN↓YELLOW

攻撃・能力が変化した!

髪の毛が黄色に変色!

え?いきなり髪の毛が、黄色に変色した奈々。なんだ?どうなったんの!?手品ですか?

「あはっ♪この状態なら、あなたを倒せそうね。」

く奈々く

フルブースター状態!

空中移動速度限界超え!

特殊アイテム使用!

異次元の武器倉庫!

武器CHANGE!!

特製鋼鉄槍マイク

←

邪竜剣・神竜殺し

武器 邪竜剣・神竜殺し

能力発動！

愛と恋の境界線Ver. 4

特殊攻撃・能力無効化！

防御力アップ！

……フルブースター状態って、いろんな意味ですごいな。奈々の背中から、飛行機の翼が出現して、物凄い勢いで火を噴き出してしる。そのまま上空に飛び立ち、剣を構えて嘲笑う。

「ふふつ、空中戦は嫌いかな？ 苦手なの？ あっ、わかった！ 怖いんだね。そうでしょ？」

挑発されてんのか？ ……ここで攻めなきゃ、男が廃る！ ヤッてやろうじゃんか。

（奈々）

飛翔！

（そらとぶユパ様）

ルドウン竜の翼！

飛翔！

「あら？ てつきりビビって来ないかと思ったわ♪」

「……飛べねえ豚は、ただの豚だ。空中戦なら、マルコの次に俺が強い！」

メーヴェに乗りたくないな。なんて願望はさておき、どうやら奈々は、空中戦が得意な様子。ぶっちゃけ、空中戦なんて、数えるくらいしか戦った事ないな…。

「そうこなくっちゃ!」

奈々が高度を上げた! 背中の翼から、爆炎を噴き出して、阿呆みたいな速度で、ぐんぐん上昇していく。どんだけ速いんだよ…。あまりに高く高度を上げた為、豆粒みたいに小さく見える。それほどまでに、高い場所まで飛んでいったか…。

く奈々く

急上昇!

超速滑空!

攻撃威力増大!

命中率99%!!

邪竜剣・神竜殺し!

竜鳴突貫!

ヤベー! 上空から奈々が、恐ろしい勢いで、剣を構えながら俺目掛けて降下してくる。命中率99%!? これは避けられん。アイテムを使用する時間も、隙もない。ヤベー! マジヤベー! 神さま、風の神さま! 大和を守って♪

「喰らええええええ！」

HIT!!

HP 60000000／24700000

「痛ってえええええ！」

マジ痛い…。かろうじて体を捻り、奈々の斬撃は脇腹をえぐって、直撃は避けたが、それでもとんでもないダメージだ。くっそ、風の神様め！守ってくれて言ったのに。どうやら、俺はナウシカにはなれないようだ…。

くそらとぶユパ様

奈々の攻撃！

真下からの強襲！

HIT!!

右足切断！

右足使用不可能！

HP 60000000／547030

「ぎゃあああああ！」

怯んでる隙に、今度は真下から奈々が攻撃を仕掛けてきやがった！右足を綺麗に切断され、血しぶきが舞い散り、体制を崩して地面に落下してしまう。

くそらとぶユパ様

落下！

自爆！

HP 6000000／546830

「な〜んかぁ、弱くない？本当にアダムを倒したのお〜？」

ぐぐぐつ、RANK5の強さは伊達じゃねえ！ぶっちゃけ、RANKINGの上位者が集まれば、アダムなんか余裕で倒せたんじゃないか？何故それだけの力を持ちながら、アダム戦に奴らは参加しなかったんだ？参加したのは、天宮とああ。それに、優柔不断とガルド・ゾーラくらいじゃないか？

〜そらとぶユパ様〜

能力発動！

ニート&END！

昇華使用！

ステータス限界強化！

一定時間DAMAGE無効！

「何故だ！？それだけの力を持ちながら、なんでアダム戦に参加しなかった？」

〜奈々〜

そらとぶユパ様の攻撃！

聖天自堕落巨神剣！

薙ぎ払い！

MISSES！！

奈々は回避した！

「答えは簡単。あの戦いは、世界放映されていたし、自分の実力が

他の上位ランクにばれるでしょ？アダムを倒した後の展開を考えれば、参加しないほうが上策じゃない？」

「そらとぶユパ様」

「奈々の攻撃！」

「邪竜剣・神竜殺し！」

「乱れ突き！」

「HIT！」

「HIT！」

「HIT！」

「HIT！」

「HIT！」

「HIT！」

「HIT！」

「HIT！」

「HIT！」

「HIT！」

「DAMAGE無効！」

「DAMAGE！！」

HP 6000000／546830

「なんだと……？そんな理由で、参加しなかったのか！」

「そんな？ハハッ、あんた馬鹿でしょ？アダムを倒す為に作られた、超弩級化学システムEARTH・PERIOD。アダムを倒したら、どんな事に使われるか考えなかった？」

「……………？」

「底無しの馬鹿ね♪これだけの物を動かすエネルギーよ？それを手

にした者が、世界を征する！ランキング上位者の大半と、運営側はそう考えていたのよ。それにしても馬鹿よね、あのRANK1位・AMAMIYAは。」

「…………あ？」

「だってそうでしょ？最初に、アダムに単身闘いを挑んで、手の内丸裸よ？得意げに救世主ヅラしてボロボロになって、馬鹿よね」
♪

「…………みろ。」

「は？なに、お雑魚ちゃん♪」

「もう一度言ってみろ。」

「RANK1位・チャンピオンAMAMIYAは馬鹿だって言ったのよ！」

…………許さねえ。今まで天宮が、どんな気持ちで戦って来たかもわからないクソ野郎に、天宮を悪く言う資格なんて無い！アイドルだかなんだか知らないが、調子に乗るんじゃないやねえ！！！！

くそらとぶユパ様く

滅亡ニート！

逆行世界！

峻烈の強者達！

過去から強者を呼び出した！

強者召喚！

・AMAMIYA

- ・冥界魔王、アダム・ディオラ
- ・あああ
- ・ガルデ・ゾーラ
- ・エリック・バードン
- ・ルドウン竜
- ・ケロケロ

「……………え?」

「おまえは絶対許さない!謝っても許さねえ!ここで滅びろクソ野郎!!!」

「馬鹿な！アダムを過去から呼び出した！？何なのその能力は！」

「一つだけ教えてやる。ニートは、最強の職業だ！」

く奈々く

そらとぶユパ様の攻撃！

強者饗宴！

剛冥・殺戮ビーム！

終焉のアロー！

先見の超速射撃！

極み・連発連砲弾！

地獄より甦りし業火！

究極！！竜殺フルバースト！

H I T ! ! H I T ! ! H I T ! ! H I T ! ! H I T ! ! H I T ! ! H I T ! !

H I T ! ! H I T ! ! H I T ! ! H I T ! ! H I T ! ! H I T ! ! H I T ! !

H I T ! ! H I T ! ! H I T ! ! H I T ! ! H I T ! ! H I T ! ! H I T ! !

H I T ! ! H I T ! ! H I T ! ! H I T ! ! H I T ! ! H I T ! ! H I T ! !

H I T ! ! H I T ! ! H I T ! ! H I T ! ! H I T ! ! H I T ! ! H I T ! !

H I T ! ! H I T ! ! H I T ! ! H I T ! ! H I T ! ! H I T ! ! H I T ! !

I T ! ! × 1 4 8 0 7

H P 0

よし、勝った！

く奈々く

状態変化！

YELLOW ↓ RED ! !

危険！危険！危険！

攻撃力フルブースト状態！

危険！危険！危険！

肉体に負荷がかかり過ぎています。

危険！危険！危険！

HP 仮再生！

HP 100／100

危険！危険！危険！

死を恐れぬ逆襲！

危険！危険！危険！

DAMAGE無効化！

危険！危険！危険！

ログアウトする事を強くおすすめします。

……ヤバイ匂いがムンムンするんですけど。奈々の髪の毛が、黄色から真っ赤に染まり、瞳の色まで赤く変化する。さらに、四つん這いに姿勢を構え、まるで獣のような姿だ。天宮のエロく、興奮を誘うような四つん這いではなく、明らかに危険でヤバイオーラを発している奈々。これは、ちょっとマズイかも……。

「……流石、アダムを倒し勇者。この状態になったのは、久しぶりだわ。」

くそらとぶユパ様く

奈々の攻撃！

猫パンチ！

なあっ！？一瞬で俺の懷まで移動して、右から左へと薙ぎ払うようなパンチを繰り出す奈々！

M I S S ! !

そらとぶユパ様は回避した。

かろうじて猫パンチは避けたものの、その威力は凄まじい。猫パンチの衝撃で地面は盛大にえぐられ、横長の巨大なクレーターが出来ていた。どうやら、とんでもない威力を秘めたパンチみたいだ。猫パンチなんて名前はかわいらしいが、威力は殺人的じゃないか！アレは、ゼツテエー喰らったら死ぬわ。

くそらとぶユパ様
奈々の攻撃！
可愛さ爆発！

……なんだ！？奈々の頭に、何か生えてきた？ぴよこんと生えてきたソイツの正体、それは……

「……猫耳？」

奈々の頭に生えてきた物体、それは、かわいらしい猫耳。……合計で、耳が四つも生えてるよ。

「ニャン♪」

くそらとぶユパ様
奈々の攻撃！

猫耳出現！

ポージング！

そらとぶユパ様は萌え萌え状態になった！

萌え萌え状態！？新しい状態異常攻撃か…。

男キャラのみ効果発動！

行動制限！

攻撃不可！

防御不可！

アイテム使用不可！

移動不可！

蘇生不可！

回避不可！

能力無効化不可能！

何もできません！

なんじゃそりゃあああ！ちょっと待て、いくらなんでも無茶苦茶だ！

「ニャン♪ニャン♪ニャン♪ニャン♪ニャン♪」

くそらとぶユパ様く

奈々の攻撃！

連続乱れ猫パンチ！

H I T ！！

H I T ！！

H I T ！！

H I T ！！

H I T ！！

まずい、このままじゃ死ぬ！……ん？能力の発動は、有効なのか？
そうだ、そうにちがいない。能力発動不可とは表示されてないから、
いけるはずだ！

くそらとぶユパ様く

能力発動！

ニート&END

暗雲使用！

さて、初使用の暗雲。効果はいかに！？

暗雲！

聖天自墮落巨神劍！
共鳴！

邪地自墮落小惡劍！

職業反転！

皇帝ニート

←

どん底ニート

職業　どん底ニート

……何これ？どん底ニート？これは、一体……。

特に何もおこりません。

負けないように頑張って♪

ニートファイトー！

自墮落剣に励まされた。

……え？これだけ？？他に何か怒らないの？？？

くそらとぶユパ様く

奈々の攻撃！

猫の甘え！

いゃん、やめて！いじめないで♪

ポージング！

そらとぶユパ様のやる気を削いだ！

テンションMAXダウン！

最終奥義使用不可！

……暗雲を使ったのは間違いだったよ。しかも、最終奥義まで封じられ、あの巨人に変化もできない……。ならば、ここでの選択は他

の能力を使用する事だが、昇華は使ったし、暗雲はハズレ能力。残っているのは、閃光・暴風・虐殺のどれかだが…、未使用の暴風は使わないでおこう。どんな効果かわからないから、迂闊には使えない。

（そらとぶユパ様）

奈々の攻撃！

決めポーズ！

行動制限！

能力使用不可！

完全に動きを封じられました。

詰み状態！

強制敗北！

L V変動ナシ。

あゝあ、負けた。RANK5は伊達じゃなかったよ…。丹蛭陀もそうだったが、上位ランクの奴らは、相手の追い詰め方がうまい。最終的に、こっちは何も出来なくなって、敗北する。天宮の超火力・超スピードで攻撃の隙を与えず、圧倒的な力で敵を振伏せるスタイルとは違った強さだ…。

「な〜んだ、やっぱりたいしたことないじゃない。」

「ぐっ…！」

…：…なっ、何も言い返せない！悔し過ぎる…。

「これで、あなたも運営側に落ちたわね。ふふふ…、駒が一つ増えたわ♪」

がつくりとうなだれ、何も言い返す事が出来ない。今まさに、奈々に腕を掴まれ、連れていかれそうになったその時！意外な人物が舞い降りた。

「困りますねえ…。倒し者を連れていくと言うのなら、私は貴女を殺す事になりますか？」

「お前は、RANK3の研究員丹蛭陀！」

そう、突如現れたのは、あの丹蛭陀。突然の事態に困惑していると、丹蛭陀は奈々に向かって、殺気を含んだ声で言い放つ。

「倒し者が、そちら側の派閥に付かれると、厄介極まりない！貴女は、ここで朽ちていただく！！」

まさか、丹蛭陀が俺を助けてくれるのか！？？だとしたら、二人で奈々を倒して、隙を見てログアウトすれば…。

「上等ニャン♪あなたを倒して、RANK3の座を奪うってのも、悪くないニャン♪」

RANK5（奈々）

VS

RANK3（研究員丹蛭陀）

上位ランク同士の戦いとなります。勝利時、経験値は5倍になります。RANK5が勝利した場合、RANK3に昇格し、RANK5がRANK3に敗北した場合、RANK5に降格となります。

……こっ、この勝負は、どっちが勝つか全く予想出来ない！ただ、
奈々が丹蛭陀を殺してくれば、天宮が復活するし、丹蛭陀が勝て
ば俺は運営側に味方しなくて済むぞ！どっちに転んでも、おいしく
ないか？

く谷川大和く

HP 20／0

突然の事態に困惑！

腹黒さ爆発！

く研究員丹蛭陀く

能力発動！

先見！

アイテム使用！

岩石ドリンク！

防御力アップ！

耐性アップ！

状態異常抵抗値アップ！

「これで、貴女の制限攻撃に、多少は抵抗できるでしょう。」

うおおお！？流石、丹蛭陀！先見で先を読んで、奈々の制限攻撃に
キッチリ対応したぞ。天宮を敗っただけの事はあるな…。

く奈々く

アイテム使用！

異常薬！

状態異常攻撃強化！

アイテム使用！

異常薬！

さらに状態異常攻撃強化！

アイテム使用！

異常薬！

もつと状態異常攻撃強化！

奈々が、気違いみたいに薬をがぶ飲みしてる……。知らない人がみたら、薬物中毒者だよ……。ランキング上位者の、もはや恒例とも言える、アイテム使用合戦。コイツら、よくそんなにアイテムを買う金があるな……。俺なんか、カーイフク薬二個しかないのに……。

く研究員丹蛭陀く

奈々の攻撃！

免許はナメ猫！

状態異常！

研究員丹蛭陀は耐えた！

効果無効！

「チッ！簡単にはいかないニャン♪ならば、小細工無用！」

「…………フツ、望むところです。」

く研究員丹蛭陀く

奈々の攻撃！

猫パンチ！

M I S S！！

研究員丹蛭陀は回避した！

「ニャン♪ニャン♪ニャン♪」

猫パンチ！

猫パンチ！

猫パンチ！

MISS！！

MISS！！

MISS！！

研究員丹蛭陀は攻撃を全て見切っている！

研究員丹蛭陀の攻撃！

能力発動！

白銀の死翼！

飛翔！

「させないニャン♪」

うわっ！？ 丹蛭陀が能力を発動させ、空に飛んだ瞬間、奈々は猫のように軽やかにジャンプして、あっという間に、丹蛭陀より高い位置まで飛び上がる。そのまま、奈々は両拳を組んで、自分より下にいる丹蛭陀目掛けて、両拳をおもいきり振り下ろす！

「甘いんだよっ！」

く研究員丹蛭陀く

奈々の攻撃！

猫×2スマッシュ！

MISS！！

研究員丹蛭陀は回避した！

丹蛭陀は、空中で体を捻り、奈々の攻撃をかわして、さらに高度を上げる。奈々が地面に着地すると、丹蛭陀は巨大なバズーカ砲を構え、奈々に向けて発射する。

「奈々」

「研究員丹蛭陀の攻撃！」

「巨大砲ジェノサイド！」

「装填完了！」

「発射！」

「あゝ、もうっ！こんな避けられないニャン！仕方ないなあ…。」

「奈々」

「レアアイテム使用！」

「イマノナシ！」

「攻撃強制無効！」

「研究員丹蛭陀の攻撃は無効化された。」

「…………まあ、それも予測済みです。」

「先見って、ずっるゝい！男らしくないワ。男なら、先見抜きで戦いなさいヨ。」

「そうやって、私を挑発してくる事も、見え見えですね。」

「その大人びた態度もムツカつくゝ！」

「貴女が子供なだけですよ。お子様奈々ちゃん♪」

「ムツキー！ちょっと顔がカッコイイからって、調子に乗りすぎだワ。」

「…………今の内に、ログアウトしようかな？いや、丹蛭陀の事だか

ら、それも予測済みだろうな…。

「その通り倒し者！迂闊な行動はとらない方が、身の為ですよ？」

……心を読まれた！？なんか、先見ってよりも、エスパー？……………
キモいな丹蛭陀。

「最近、能力により磨きがかかりましてね、人の考えている事までわかるようになったんです。……………しかし」

……………しかし？

「キモいとは心外ですね。」

コイツマジだ！やべえ、とんでもない化け物じゃんか！……………つて、まさか今の化け物発言…

「キモいの次は化け物ですか？」

頭を掻きながら、うんざりしたような表情を見せる丹蛭陀。……………
もう、まぐれでも丹蛭陀に勝てる気がしねえ。こんな状態じゃ、
々は丹蛭陀には勝てないな。

（奈々）

研究員丹蛭陀の攻撃！

異次元からの召喚！

地を這うナウシカを呼び出した！

（地を這うナウシカ）

LV 66909

HP 78000／78000

職業 魁・超絶廃人

武器 聖天自堕落魔王槍

防具 赤き血で染まった衣

能力 開幕即死！からの！

プレイヤー RANK RANK外

戦績 551勝0敗0引き分け

丹蛭陀が、誰かをフィールドに召喚したようだ……。……って、地を這うナウシカ！！！？ネーミングセンスが神がかってやがる！いいね。地を這うナウシカは、全身真っ赤なゴツイ鎧を纏い、まるで、その姿は真っ赤なダースベーダーみたいだ。しかも！顔には顔ナシの仮面を被っていて、顔が全くわからない。くっ、俺のジブリ魂をくすぐってきやがる……。やるな！

「さあ、相手はRANK5の奈々です。殺しなさい！」

「……………わかった。」

コクリと頷く、地を這うナウシカ。……ん？あの声は、なんだか聞いた事があるようなく？……………あああ！！！！いやっ、そんな筈は！

「……………直秀、なのか？」

「……………」

「直秀なんだろう!? おい、直秀!!」

間違いない。あの長身に、いつも付けている銀色のピアスと指輪。あれは、直秀のトレードマークともいえる物だ。親友の俺が、間違える訳がない! なんて、直秀が EARTH・PERIOD の世界に!? しかも、丹蛭陀と繋がりがあある!?

「クッククク…、地を這うナウシカは強いですよ。何たって、倒し……………」

そこまで言って、急に丹蛭陀は口を閉じる。…………なんだ? 何を言うおとしたんだ?

「奈々」

VS

「研究員丹蛭陀」
乱入者出現!

「奈々」

VS

「研究員丹蛭陀」

く地を這うナウシカく

く地を這うナウシカく

能力発動！

開幕即死！からのく

即死！

HP 0

戦闘不能！

……いきなり直秀が死んだぞ？あいつ、ハズレ職業の廃人を選んだのか……。……ん？ちょっと待てよ、おかしくないか？開幕で死ぬ筈の廃人が、何故戦績上では勝っているんだ？それに、直秀のステータスには、廃人の上位職業らしき職業が記載されている。これは、何か起きる予感がする。

く研究員丹蛭陀く

アイテム使用！

RE・ベンジ！

地を這うナウシカ蘇生！

特殊能力発動！

スーパ―廃人2

その者赤き衣を纏い、金色の野を駆け抜ける……

覚醒！

不死効果付属！

DAMAGE無効化！

フィールド全域に存在するプレイヤーの能力が使用可能です。

……死さない上に、DAMAGE無効。揚句の果てに、フィールド全域のプレイヤー能力をコピー……。とんでもない能力だ。

（地を這うナウシカ）

そらとぶユパ様の能力を使用した！

最終奧義！

ニート・THE・END!!

ナウシカ
World!

でっかいニート変化！

翼を背負いし巨人！

H
P
—

不死効果の為、HPは表示されません。

「ゴガアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアア
アアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアア」

なつ、まさか……あの巨人にも変化できるとは、正直驚きだ。

「驚きですか？ まあ、あの巨人に変身できるのは当然なんですよ。」

……は？　どういう事だ？　どうせ俺の心の中がわかるんだから、読み取れたら直ぐ説明しろよ！

「はいはい、わかりましたよ。あのプレイヤーには、そらとぶユパ様の戦闘データがインストールされている、そらとぶユパ様2号です。さらに、複数のプレイヤーデータをカスタマイズして、独自進化したNEWそらとぶユパ様と考えていただければ……」

何だって！？俺の分身？

「何故、直秀なんだ！」

「いやあ、たまたま面白いプレイヤーネームを見つけたら、なんと

倒し者の知り合いでしたか。偶然って、恐いですね♪」

「くっ、直秀……。」

「大丈夫♪あのナウシカは、すでに貴方の事は忘れてます。」

「は？何言って……」

「プレイヤーデータをインストールする際に、思考回路がイッチャッタみたいなんですよ。ショックだね。まあ、無理矢理インストールしたのが原因なんですが、自分の中にもう一人、他の人間が無理矢理入り込んだら、当然の……」

「……ゴッ……！」

丹蛭陀の顔面に、おもいきり拳を入れる。そして、俺の腹は決まった。丹蛭陀は、今ここで殺す！天宮や直秀をめちゃくちゃにした、コイツは絶対に許せない。

「奈々ああああああ！！！！お前達の派閥に付いてやる！能力を解除しろおおお！あの巨人は……直秀は俺が助ける！」

そうだ、今はなりふりかまっていられない。コイツらの派閥に従って、EARTH・PERIODの全てを手に入れ、俺はEARTH・PERIODのみを破壊する！こんな馬鹿げた物があるから、人間の心は醜く歪む……。

「もともとそういう約束ニャン！」

「奈々」

能力解除！

そらとぶユパ様のステータスが正常に戻った。

アイテム使用！

カーイフク薬×10！

＼そらとぶユパ様＼

HP全回復！

HP 60000000／60000000

＼奈々＼

＼そらとぶユパ様＼

VS

＼研究員丹蛭陀＼

＼地を這うナウシカ＼

「奈々は丹蛭陀を！俺は直秀と闘う。」

……直秀、お前を助ける！

「……………ほう、そうきましたか。まあ、貴方の戦闘データは、地を這うナウシカにインストールした訳ですし、殺しても問題はないかなあ？」

丹蛭陀は、相手の攻撃と、心が読める、能力特化のプレイヤー…。ならば、何も考えず、無心で戦うんだ！悟りを開け！

「悟り？そんな物、無意味に等しい！」

……やっぱり無理かも。

「ゴギヤルルオオオオオオオオ!!」

……ぶっちゃけ、超恐いんですけど。成り行きで直秀と戦うとか言
ったケド、あんなでっかい奴と戦う訳? つか、俺も巨人に変化し
たら、ああなるのか。

〽奈々〽

研究員丹蛭陀の攻撃!

巨大砲ジェノサイド!

装填完了!

「隙ありニャン!」

奈々のCOUNTER!!

猫背フック!

HIT!!

HP 7850041354 / 70900041226

「グッ、まさか装填中の隙を突かれるとは!」

「ニャン♪ニャン♪ニャン♪ニャン♪ニャン♪ニャン♪ニャン♪」

〽研究員丹蛭陀〽

奈々の攻撃!

猫コンボ!

猫パンチ!

HIT!!

猫キック！

HIT！！

猫頭突き！

CRITICAL HIT！！

猫ポーズ！

防御力低下！

猫アッパーカット！

HIT！！

とどめの一撃！

猫まっしぐら！

状態異常！

猫猫猫ニャー！

毎ターンランダム効果！

HP 78500041354／2911480869

うおっ！？す、すげえ！丹蛭陀の一瞬隙を突いて、奈々は鬼のように攻撃を繰り返し、丹蛭陀をボコボコにしている。

く地を這うナウシカく

怒れる一撃！

無差別攻撃！

鎧袖一触！

そらとぶユパ様

MISS！！

奈々

MISS！！

研究員丹蛭陀

MISS！！

危ねえ！直秀の奴、右足を払うように動かして、まとめて俺達をや

るつもりだったな…。

くそらとぶユパ様
能力発動！

ルドウン竜の翼！

飛翔！

地を這うナウシカのCOUNTER！！

叩き落とす！

ちくしょう、ルドウン竜の翼を使用した途端、直秀は俺を叩き落とそうと右手を振り下ろしてきやがった。すかさず体を捻り、指と指の間を縫うように擦り抜け、顔面目指して舞い上がる。

MISS！！

そらとぶユパ様は回避した！

「目を覚ませっ！直秀！！お前は、丹蛭陀に……」

くそらとぶユパ様
地を這うナウシカの攻撃！
右ストレート！

ヤッペー！このままじゃ、直撃じゃんか。巨人の攻撃力の高さは、自分が一番よく知っている。……仕方ない、目には目を。巨人には巨人だ！

くそらとぶユパ様

最終奥義発動！

ニート・THE・END！！

能力制限解除！

ユパ様World!!
でっかいニート変化!

翼を背負いし巨人!

HP 8000／8000

「ギリヤラアアアアアアアアアアアアアアアアア!!!」

直秀の右ストレートを、左手で受け止め、握力任せに全力で握りしめる。

「ゴガアアアアアアアアアアアアアアアアア!!!」

「ガアアアアアアアアアアアアアアアアア!!!」

直秀は、左足を軸にして、右腕を振って勢いを付けながら、右足でローキックを繰り出す。

「そらとぶユパ様」

地を這うナウシカの攻撃!

ローキック!

HIT!!

HP 8000／7980

そらとぶユパ様の攻撃!

右ストレート!

HIT!!

HP —

地を這うナウシカの攻撃!

左フック!

HIT!!

HP 8000／7910

そらとぶユパ様の攻撃！

上段の回し蹴り！

HIT！！

HP ー

地を這うナウシカの攻撃！

跳び膝蹴り！

CRITICALHIT！！

HP 8000／7800

そらとぶユパ様の攻撃！

頭突き！

HIT！！

HP ー

地を這うナウシカの攻撃！

後ろ回し蹴り！

CRITICALHIT！！

HP 8000／7650

そらとぶユパ様の攻撃！

エルボー！

HIT！！

HP ー

地を這うナウシカの攻撃！

1・2 ジャブからの変則裏拳！

HIT！！

HIT！！

HIT！！

HP 8000／7490

そらとぶユパ様の攻撃！

力任せにぶん投げる！

CRITICALHIT！！

HP ー

馬乗り状態！

マウントポジション！

顔面殴打！

H I T ！ ！

H I T ！ ！

H I T ！ ！

H I T ！ ！

H I T ！ ！

H P —

がっぷり四つに組む。まさしく、こういう事を言うのだろう。もはや、言葉はいらない。拳で語り、直秀を救う！

地を這うナウシカの攻撃！

噛み付く！

H I T ！ ！

H P 8000／7420

痛ッ！？手を噛んだなこの野郎！

地を這うナウシカの攻撃！

ブリッジ！

馬乗り状態解除！

うわっ！？ブリッジで俺の体制を崩し、一瞬の隙を突いて馬乗りから逃げた！？

地を這うナウシカの攻撃！

前蹴り！

H I T ！ ！

HP 8000／7380

踵落とし！

CRITICAL HIT！！

廃人波動砲！

ターゲットロックオン！

発射！

CRITICAL HIT！！

HP 8000／6800

ぐっ、不死効果のせいで、直秀は一切DAMAGEを受けていない。
こっちは徐々に減ってきてるのに、向こうはピンピンしてやがる。

「クッククク…、凄まじい戦いだ。あの力さえあれば……」

「よそ見している暇なんかあるのかな？」

く 研究員丹蛭陀く

奈々の攻撃！

猫正拳突き！

MISS！！

研究員丹蛭陀は回避した！

「うゝん…、貴女と戦うのは疲れますね。一気にケリをつけましようか。」

く 研究員丹蛭陀く

最終奥義発動！

虐殺・ジェノサイドキャノン！

装填完了！

能力発動！

白銀の死翼！

飛翔！

発射！

究極！フルバースト！

「んにゃー！！無理無理、避けられないよー…。」

H I T ！！

H I T ！！

H I T ！！

H I T ！！

H I T ！！

H I T ！！

H I T ！！

H P 100／0

猫魂！

猫根性！

猫蘇生！

H P 100／1

状態

R E D ↓ N O R M A L

「いったーい…。ケド、まだH Pは1残ってるわ。1もあれば…。」

「ハハハッ！貴女、あと3秒後にH Pは0になりますよ。」

「…………？何を言って」

グサッ！

「……え？ちよつ、」

乱入者出現！

高燃費少女・ハジイ

ゝ奈々ゝ

ゝそらとぶユパ様ゝ

V S

ゝ研究員丹蛭陀ゝ

ゝ地を這うナウシカゝ

ゝ高燃費少女・ハジイゝ

ゝ奈々ゝ

高燃費少女・ハジイの攻撃！

串刺し！

H I T！！

H P 0

戦闘不能！

警告！

現実世界の肉体に負荷がかかり過ぎていらす。ログアウトする事を強くオススメします。

「…なっ!？」

「はい、終了♪よくやりましたね高燃費。これで、残るは倒し者のみ！」

なんだ？ 奈々がやられた！？ 嘘だろ！？

……高燃費、テメエどっから沸いて出てきやがった！ まさかの展開に、読者もびっくりだよ！……え？ びっくりしてない？ 君達、意外と冷静なのね……って、何言ってるんだ俺？

（そらとぶユパ様）

地を這うナウシカの攻撃！

ドロップキック！

HIT！！

HP 8000／6500

しまった！ ついよそ見をしてしまった……。つか、何で高燃費が、奈々を？

……あー、そうだった。元々、奈々を倒す為に、LV無差別区域にインしたんだった……。

「うひゃひゃひゃひゃ！ ザマーみろウンコ奈々！ ギャハハハハハハハハハ！！！」

……高燃費少女・ハジイ。彼女は、念願の打倒奈々を果たし、えらく興奮しているようだ。あのテンションのまま現実世界に戻ったら、不審者として警察に捕まる事間違いなし！ ヨダレ垂らしてるし、気違いじみてるよ、マジで。

「ふふふ……、三人でかかれば、余裕で倒し者を殺せるでしょう。」

丹蛭陀の野郎が、あざ笑いながら俺を見てくる……。畜生、悔しいケ

ド、丹蛭陀はイケメンだ。どのくらいイケメンかというと、街でナンパしたら、女の子を99%落とせそうなくらいイケメンだ。
え？今の状況で、丹蛭陀の説明はどうでもいい？

「高燃費、貴女はアイテムで私とナウシカのサポートをしなさい。」
ぐぐぐつ、ひよつとして…、高燃費は運営側の人間で、最初から俺をハメるつもりだったのか？

「ほう！よく気付きましたね。その通り、高燃費は、私達側の人間ですよ。ついでに、RANK5も呼び出し、まとめて葬り去る計画でしたが、こうも上手くいくとは思いませんでした。」

…：さりげなく、ピンチじゃね？高燃費はともかく、丹蛭陀と直秀を同時に相手するとか、キツイにも程がある。しかも、直秀には得体の知れない不死効果に、丹蛭陀は先見…。勝ち目あるのかコレ？
チクショウ、どんだけ俺を追い詰めれば気が済むんだ作者の野郎め！

（そらとぶユパ様）

研究員丹蛭陀の攻撃！

先見の斬撃！

地を這うナウシカの攻撃！右ストレート！

H I T！！

H I T！！

H I T！！

H I T！！

H I T！！

H P 8000／6000

…マジでどうしよう？丹蛭陀の禁断奥義が使用されたら、今度こそ

勝ち目がないぞ？

奈々が刺されて、ピクリとも動かない。ちよつ、流石に奈々が死ぬのはマズイ！なにより、現実世界では、たまねぎみじん切りのスーパーアイドル、早河奈々だぞ！？ここで見殺しにしたら、ファンの皆様方が、大変悲しむに違いない。マスコミも世間の人間も、色々と騒ぐかも…。…。奈々を助けて、ログアウトか？どうするっ！？

「無駄です。貴方の考えは、全てお見通しですから。」

……。丹蛭陀。お前、研究員丹蛭陀よりも、預言者丹蛭陀の方が、ピツタリの名前だと思うぞ？

ああああ！

ひっ、一つあったぞ！コイツらに対抗できる、唯一の能力が！丹蛭陀、今見せてやるよ。ニートの偉大な能力を！

「なっ、なに！？あ……。や、やめろおおおお！！」

丹蛭陀が絶叫している。

ワハハハ！お前の能力なんか、これでおしまいだ。あー、丹蛭陀のレアな絶叫シーンを見ただけでも、ヨシとしよう。

くそらとぶユパ様く

能力発動！

能力無効化！

先見無効！

……。あれ？先見だけ解除？直秀の巨人変化が、解除されないぞ？どうなってるの？

く地を這うナウシカく

能力発動！

能力無効化！

能力無効化を無効化！

くっそ、直秀の巨人変化は解除されなかったか。まあ、今は奈々の方が先だ。なんとしても奈々を助けて、ログアウトしなければ！

「くっそがあああああ！！このクソガキがあああああ……おっと、ドクターの息子さんに、クソはマズイ。」

アッハハハハ！丹蛭陀が超取り乱してやがる。なんか、スッキリした。先見の使えない丹蛭陀なんか、並のプレイヤーとなんら変わりはない！

イケる！これはイケるぜ大和！丹蛭陀に勝てるカモ♪

く谷川大和く

HP 20／20

丹蛭陀の先見を破った！

テンションアップ！

お気楽な思考回路！

アホ丸出し♪

くそらとぶユパ様く

能力解除！

巨人変化解除！

元のステータスに戻ります。

丹蛭陀の先見が解除された今、もはや丹蛭陀は雑魚同然！別に、無理矢理勝たなくても、さっさと奈々を助けて、ログアウトすれば奴らの作戦はパアだ。いつまでも巨人の状態じゃなくても、勝ちにこだわってないなら解除するのがベスト！これなら余裕だしな。

「うっしやー！丹蛭陀覚悟ッ！！」

く研究員丹蛭陀く

そらとぶユパ様の攻撃！

聖天自墮落巨神剣！

切り裂き！

一気に距離を詰め、丹蛭陀目掛けておもいきり自墮落剣を振り下ろす！フハハハハッ、勝ったな。

ガッッ！

ん？ガッッ！って、何の音だよ？

MISS！！

研究員丹蛭陀は受け止めた！

は？ちょっと！おいしいいい！？

丹蛭陀は、普通に自堕落剣を左手で受け止め、いたって余裕な表情だぞ！親指と人差し指だけで、自堕落剣をつまんでる…。つか、びくもしないんですけど。

「……ひょっとして、先見が使えない丹蛭陀なんか雑魚だぜ！…とか、思いました？」

ゲゲゲッ、バレバレやん！

「言っておきますけど、能力抜きのカチンコ勝負でも、私は強いですよ？」

……そうだった。モンスターを一撃で捻り潰すくらい、めちゃくちゃな力を備えてたんだ。やべえ、失敗した！巨人の変化を解除しなければよかった…。

くそらとぶユパ様く

研究員丹蛭陀の攻撃！

前蹴り！

C R I T I C A L H I T ! !

H P 60000000 / 34000000

「ぐふうっ…！」

なに…！？基本攻撃で、DAMAGEが260000000！？化け物ですか？

丹蛭陀に蹴られ、勢いよくぶっとんで、血を吐きながら倒れ込む。うっ、内臓がイッたかな…？マジで誤算だった…。謝っても、許してくれねえだろうしな…。

「さっきの元気はどうしたのかな？」

く 研究員丹蛭陀く

アイテム使用！

光の腕輪！

腕力アップ！

精神力アップ！

テンションアップ！

うっ、丹蛭陀が凄まじい勢いで、一気に接近してくる。ぐっ…、立たないと、さらなに追撃される！

立て、立つんだジョー！……なんて言っている場合ではない。カーイフク薬で、体力を回復しないと…。

くそらとぶユパ様く

アイテム使用！

「遅い！」

研究員丹蛭陀のCOUNTER！！

投薬阻止！

HIT！！

そらとぶユパ様のカーイフク薬は破棄された。

げっ、カーイフク薬を飲もうとしたら、丹蛭陀が素早い上段の蹴りで、カーイフク薬を弾き、そのまま明後日の方向に飛んで行くカーイフク薬。

何すんのコイツ！？

カーイフク薬は値段が高いんだぞ！あ…、勿体ない。

「倒し者の戦闘力は、既に把握済み！アダムを倒せても、私には絶対に勝てません。」

絶対！？言い切ったな！

く高燃費少女・ハジイく

アイテム使用！

オソクナレ！

そらとぶユパ様

行動鈍化！

回避率30%ダウン！

うげっ！？体が動かしにくいぞ。これはマズイ…。

「今だあああ！やっちまえ這うシカ！！」

今がチャンスとばかりに、高燃費が叫ぶ。つか、這うシカ！？ナイスな略だな。

くそらとぶユパ様く

地を這うナウシカの攻撃！

踏み付ける！

ぬおおおお！？やべえ、ヤベエ、野部餌！踏み付けられたら、確実に死ぬ！どうする！？

……駄目だあああ！何も思い浮かばない。まっ、また負ける…。なんか、主人公なのに、最近負けっぱなしのような気が…？くっそく、主人公といったら、何が起きても最後には絶対勝つ仕組みになっている、美味しいポジションの筈なのに…。嗚呼…、神さま。風

の神さま！ユパ様を守って♪……なんて言ってる場合じゃねえええええ！

……ビタッ！！

は？ビタッ？なんだよビタッって？

くそらとぶユパ様く

地を這うナウシカの攻撃！

踏み付ける！

攻撃中止！

地を這うナウシカは攻撃を止めた！

攻撃CANCEL！！

HP 60000000／34000000

んんん！？直秀が、攻撃を止めた？右足を上げたまま、固まってる。どうしたんだ？

「ヤ……マ……ト。た、たす……け……」

消えそうなくらい、小さな声で、直秀が呟く。

……あいつ、まだ自我が残ってる！丹蛭陀の洗脳だかインストールだかなんだか知らねえが、完璧に直秀を操れてないんだ。

「チイツ、不具合が生じたか！」

丹蛭陀が動揺してる。今がチャンスだ！

くそらとぶユパ様く

能力発動！

ニート&END!!

閃光使用!

武器の形状が変化した!

セラミックソード!

行動鈍化強制解除!

く研究員丹蛭陀く

そらとぶユパ様の攻撃!

セラミックソード!

セラミックの一撃!

CRITICALLHIT!!

切り上げ!

HIT!!

切り下げ!!

HIT!!

渾身の斬撃!

大車輪!

CRITICALLHIT!!

CRITICALLHIT!!

CRITICALLHIT!!

CRITICALLHIT!!

CRITICALLHIT!!

HP 78500041354／4580369

「ぐうつ、何だと!? この私が、こんな醜態を晒すとはっ!!」

「まだまだああああ!」

イケるっ、アダム戦を思い出せ! 一気にDAMAGEを削って、ゴ
リ押しで丹蛭陀を倒す!

くそらとぶユパ様く

ペット召喚！

ユパ様に従える竜

ペットとの連携攻撃！

「行くぞおお！おもいつきり暴れるユパ竜！」

ドラゴンクロー！

HIT！！

火炎の息吹！

HIT！！

噛み付き！

HIT！！

ほうり投げる！

強制無防備飛翔！

メテオドライブ！

HIT！！

強制落下！

とどめの一撃！

ニートの主張！

働くのだりいゝ…

HP 0

研究員丹蛭陀戦闘不能！

「ぐはあっ！馬鹿な、RANK3の私が負けた…。」

がつくりとうなだれ、落ち込む丹蛭陀。しかし、直ぐに立ち直り、俺にガンをとばしながら言い放つ！

「今回は大人しく引きましょう。次に戦う時は、倒し者を必ず殺す

！」

ふーん…、必ずねえ。こわいなあ〜♪

丹蛭陀はそう言い残して、ログアウトしていく。それに続き、高燃費と直秀が順々にログアウトして、フィールドから姿を消す。……って、直秀を助け損ねたぞ！ヤッベ〜…、大丈夫かな？まあ、とりあえず今は奈々が先だ。

「おい、大丈夫か？しつかりしな！」

ビタビタと奈々の頬を叩き、意識の有無を確認する。すると…

「……うーん、痛ッ………え！？」

どうやら気が付いた様子。奈々は、イマイチ状況が把握できていないようで、頭の上にクエスチョンマークを浮かべ、高燃費に刺された傷に手を当てながら話かけてくる。

「て、敵は！？ RANK3と、ハジイは！？」

「あん？俺が追い払った。とりあえず、今日はログアウトしたらどうだ？その傷、相当深いだろ？」

「………そうするわ。貴方とは、また会う事になるわね。」

「そうだな。いろいろと聞きたい事もあるし。」

「………じゃ、またね。後日会いましょう。」

「ああ、またな。」

奈々は、そう言ってログアウトして行った。

まあ、丹蛭陀を追い払えただけでヨシでしょう。

そして、ログアウトのボタンを押し、EARTH・PERIODの世界から現実世界に帰還する。

運営側の人間と、ランキング上位者が狙っている、EARTH・PERIODの核となるエネルギー。個人の野望の為でなく、世界が平和になるような使い方をするんだったら、喜んで手伝うんだけだな。牛耳るとか破壊とか、悪事に使われるんなら、いつその事奪ってぶっ壊した方がマシに思えてきた。

EARTH・PERIODの機器を体から外し、地上へと通じるエレベーターに乗り込む。すると、ご丁寧に店員こと大橋がお出迎え。なんだ？今日に限って、何故出迎える？ひまなのか！？

「谷川様、ちょっとお話が。」

なんですかい！？ひょっとして、愛の告白とかじゃねーだらうな。ウゲー、止めてくれ。男から告白とか、カンベンしてくれ！

谷川大和

HP 20/20

大橋のお話！

緊張感アップ！

テンションダウン！

不安度MAX！！

「なんだい？なんか用？愛の告白ならカンベンしてね。」

「なんで貴方に告白しなければならないんですか！」

「冗談だけど？そんなムキになるなよ。」

大橋がぷんぷんと怒りながら、エレベーターのボタンを押す。つか、マジで何の用だろう？

「……現在の、EARTH・PERIODの状況は理解していますか？」

はあ？状況？そんな事、もうわかってるつーの。

「運営側と、ランキング上位者が、核となるエネルギーの争奪戦が始まってる事だろ？そんな事、わかってるよ。」

「なら話が早い。ヘッドスコープに、アバターデータを逆インストールしておきました。これからは、日常生活でも、つねにヘッドスコープを持ち歩いた方がいいでしょう。」

はあ？なんでだよ！？意味わからん…。

「なんで？」

「あなたは、EARTH・PERIODの世界でも、現実世界でも最高の救世主であり、最大の邪魔者でもある。あなたは、目立ち過

ぎたのですよ。今の貴方には、力も権力もある。EARTH・PE
RIODの最高責任者が現実世界で暗殺されたように、必ず貴方の
所にも刺客がやって来るでしょう…。」

……マジで！？超おっかないんですけど。

「けど、それはあくまでも推測だろ？襲って来るとは限らないじゃ
ないか。」

「万が一です。それに、襲って来ないとも限りません。」

確かに、大橋の言う通りだ。俺は、素直にヘッドスコープを受け取
る。すると、チーン！とかいうベタな音と共に、エレベーターが開
く。

「ありがとうございます。」

マニュアル通りの動作と言葉で、大橋が頭を下げる。
俺が狙われてるねえ…。人気者はツライぜ！

（谷川大和邸宅）

現在の時刻、23時30分。一通りの家事をこなし、ジブリ映画を
堪能中…。

いや、やっぱり耳をすませばは最高だわ。

ソファーに寝そべりながら、しあわせの一時を過ごしている大和で

した♪さーて、そろそろ寝ようかな？

ピンポン！

インターホン？こんな時間に誰だろう？まさか、また高燃費じゃねーだろうな…。

少し警戒しながら、玄関に向かって歩みを進める。どう考えても、こんな時間に訪ねて来る人間は、よほどの急用か非常識かのどちらかだ。

「はーい、今開けます。」

……………。

ドアを開けた瞬間、我が目を疑った。恐持ての男達が、色々な武器を構えながら、我が家に向かって突っ込んで来るではないか！！銃やナイフ、さらには刀とスタンガンまで、種類豊富な武器を揃えていらっしやる…。

「ンギャー！ー！？は？え？ちよっ、うわわわわ！？」

急いでドアを閉め、家の奥へと逃げ込むと、ド派手な銃声と共に、玄関のドアが文字通り蜂の巣となって、破壊される。

まさか、大橋の言ってた襲撃ですかい！？マジ勘弁してくれよ…。
このままじゃ、殺されるじゃねーか！

「○×△□！×△○○！！」

……………何語？日本語でも、英語でもねえじゃん。とっ、とにかく逃げなければ！ジブリグッズとヘッドスコープは、絶対に無傷で持つ

て逃げなければ……って、ヘッドスコープあるじゃん♪アダムの時と、同じ要領で逆インストールすれば、イけるはずだ。直ぐさまヘッドスコープを起動して、転送ボタンを押す。えい、ポチッとな。

くそらとぶユパ様く

逆インストール中:

………1%完了

………14%完了

………23%完了

「○×○×△△!」

んげ、見つかった!? やべえ、まだインストールが完了してないぞ…。銃なんか構えちゃってるよ! タイムは通じねーだろうしな…。

「うわわわわわ!? ヒイイイイイイ!」

恐ろしさのあまり、ついしゃがみ込むと、パンツ! という銃声の後に、背後にあったテレビに弾丸が撃ち込まれる。どうやら、弾丸は運よく頭上を通過して行ったようだ。

うひゃく、あぶねえ! 間一髪だったわ。

くそらとぶユパ様く

………50%完了

………60%完了

俺の家がめちゃくちゃじゃねーか! は、早く完了してくれよ…。そんな事を考えていたら、窓から強い光が差し込み、異様な機械音が住宅街いっぱいに響き渡る。

バラバラバラバラ……

ヘリコプター！？おいおいマジかよ……。俺の目が正しければ、ヘリに取り付けられたガトリング砲が、こっちを狙っている気が……。襲撃と言うよりは、戦争と言った方が正しいな。

ドガガガガガガガガガガガガガガガガガガ……

容赦なく、ガトリング砲を我が家に撃ち込む暴力外人集団。窓ガラスは木っ端みじんに碎け散り、室内の物という物は全て原型を保っていない。

え、映画のようなワンシーンが、現在に俺の目の前で起きてるよ……。ううう……。秘蔵のナウシカとオウムのプラモデルも破壊されてしまった……。

くそらとぶユパ様く

100%完了！

逆インストールが完了しました！

よっしゃあああああ！

覚悟しろ外人集団！大和様の逆襲開始じゃい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9723w/>

ネットカフェ・in・サバイバル2

2011年12月9日20時50分発行